

# 「定量的プロジェクト管理ツール」

## Redmine 版・ヘルプ

—— 管理・運用編 ——

第 1.0 版

2012 年 2 月 28 日

独立行政法人情報処理推進機構

技術本部ソフトウェア・エンジニアリング・センター

## はじめに

本ドキュメントは、Redmine を使用して稼働する定量的プロジェクト管理ツール（以下、IPF と略します）のヘルプです。IPF の管理・運用操作に関わる機能を解説しており、Redmine、及び構成管理ツール（Subversion、Git）の標準機能については、本ヘルプの記載対象外としています。

## 目次

1	本書の位置づけ.....	5
2	全体フロー .....	6
3	定量的プロジェクト管理ツールの環境設定 .....	7
3.1	定量的プロジェクト管理ツール稼働環境構築.....	7
3.2	プロジェクトの作成・削除、基本情報の設定.....	7
3.2.1	プロジェクトの作成、プロジェクト基本情報の設定.....	7
3.2.2	プロジェクト基本情報の修正.....	13
3.2.3	プロジェクトの削除.....	18
3.3	定量データ種別の設定.....	19
3.3.1	トラッカーの設定.....	19
3.3.2	定量データ収集条件の設定.....	20
3.4	ユーザの作成、権限、参加プロジェクトの設定.....	22
3.4.1	ユーザの作成、権限の付与、参加プロジェクトの設定.....	22
3.4.2	既存ユーザの権限変更、プロジェクトの追加.....	24
3.4.3	ユーザの削除.....	25
3.5	グラフ表示パターン設定.....	26
3.5.1	グラフ表示パターン設定（グローバル設定）.....	26
3.5.2	グラフ表示パターン設定（プロジェクト設定）.....	28
3.6	グループ（カスタムフィールド）の変更方法.....	29
3.7	グラフ履歴機能.....	30
4	課題・障害・WBS、工数のインポート、エクスポート.....	32
4.1	外部ファイルからの課題・障害・WBS、工数情報のインポート.....	32
4.1.1	外部ファイルからの課題・障害・WBS 情報のインポート.....	32
4.1.1.1	CSV 形式での課題・障害・WBS 情報のインポート.....	33
4.1.1.2	XLS 形式での課題・障害・WBS 情報のインポート.....	35
4.1.1.3	XML 形式での WBS 情報のインポート.....	37
4.1.2	外部ファイルからの工数情報のインポート.....	39
4.1.2.1	CSV 形式での工数情報のインポート.....	39
4.1.2.2	XLS 形式での工数情報のインポート.....	41
4.2	外部ファイルへの課題・障害・WBS、工数情報のエクスポート.....	43
5	定量データ収集・集計機能.....	44
5.1	定量データ収集（定期実行）.....	44
5.1.1	Windows 環境への定量データ収集バッチのスケジューラ設定方法（例）.....	44
5.1.1.1	スケジューラ起動用バッチファイルの修正.....	44
5.1.1.2	タスクスケジューラ設定.....	45
5.1.1.3	業務日付ファイルの修正.....	50
5.1.1.4	動作確認方法.....	51
5.1.2	CentOS、Ubuntu Linux 環境への定量データ収集バッチのスケジューラ設定方法（例）.....	53
5.1.2.1	スケジューラ起動用シェルスクリプトの修正.....	53
5.1.2.2	Cron の設定.....	53
5.1.2.3	業務日付ファイルの修正.....	57
5.1.3	バックアップ処理のスケジューラ設定方法.....	57
5.2	定量データ収集（手動実行）.....	58
5.2.1	プロジェクト管理プラットフォームデータ収集.....	58
5.2.2	グラフ表示データ収集（グラフ個別）.....	60
5.3	定量データ収集時のサブプロジェクト扱いについて.....	61
6	運用.....	62

<b>6.1</b>	バックアップ.....	<b>62</b>
<b>6.1.1</b>	バックアップ（全体プロジェクト） .....	<b>62</b>
<b>6.1.2</b>	バックアップ（プロジェクト個別） .....	<b>65</b>
<b>6.2</b>	リストア.....	<b>68</b>

# 1 本書の位置づけ

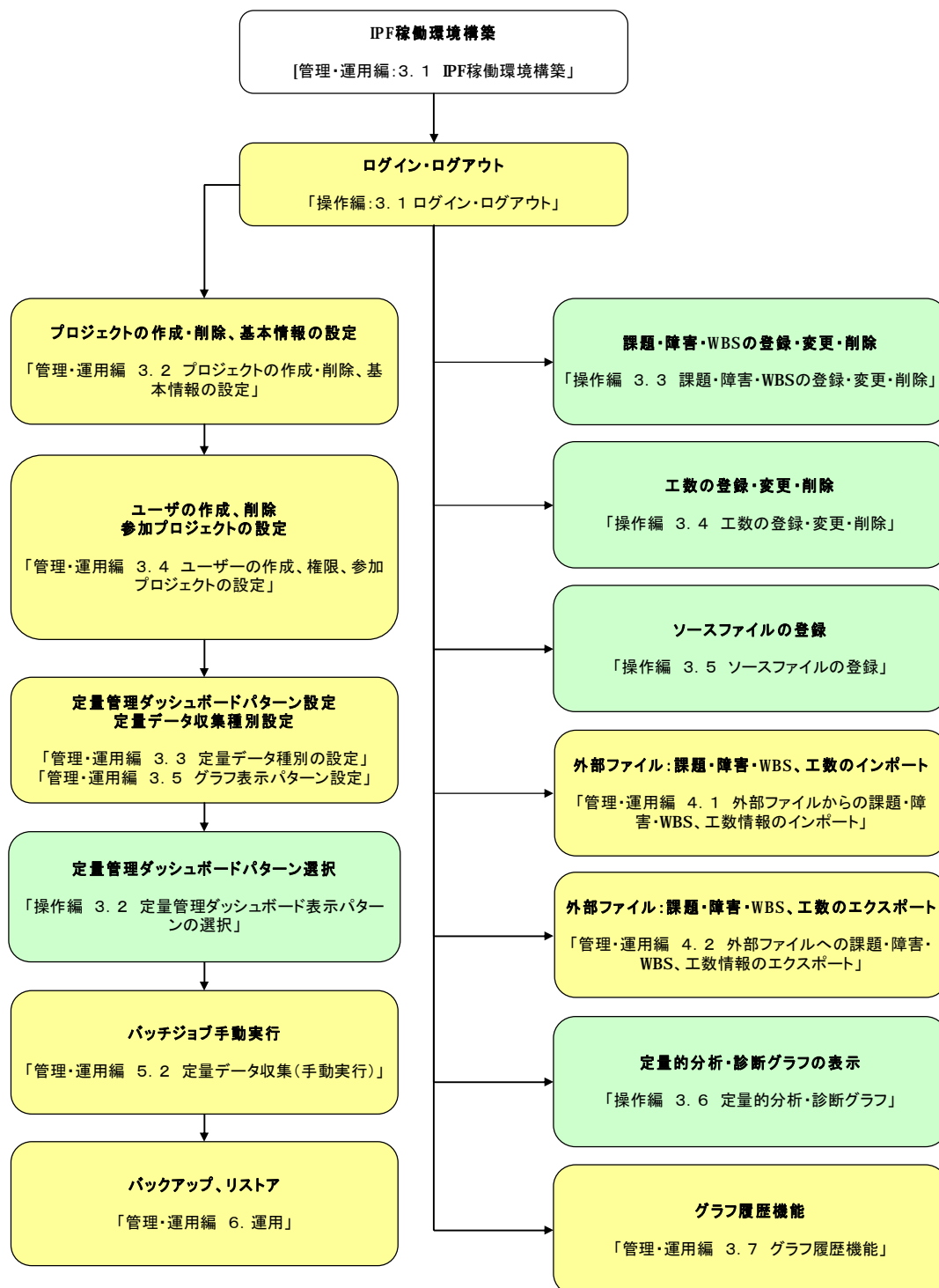
本書の位置づけを以下に示します。

D03-1 基本設計書 (IPFライブラリ)	D04-1 詳細設計書 (IPFライブラリ)	D05-1 試験説明書 (IPFライブラリ)	D07-1 クイックスタート・ガイド (IPFライブラリ)	D08-1 ヘルプ (IPFライブラリ)
D03-2 基本設計書 (ツール化実装Trac版)	D04-2 詳細設計書 (ツール化実装Trac版)	D05-2 試験説明書 (ツール化実装Trac版)	D07-2 クイックスタート・ガイド (ツール化実装Trac版)	D08-2 ヘルプ (ツール化実装Trac版)
D03-3 基本設計書 (ツール化実装Redmine版)	D04-3 詳細設計書 (ツール化実装Redmine版)	D05-3 試験説明書 (ツール化実装Redmine版)	D07-3 クイックスタート・ガイド (ツール化実装Redmine版)	<div>本書</div> D08-3 ヘルプ (ツール化実装Redmine版)
D03-4 基本設計書 I/F仕様書				D08-4 IPF用語集
D03-5 基本設計書 IPF・DB設計書				
D03-6 基本設計書 共通編				

## 2 全体フロー

本ヘルプでは

- ・ 定量的プロジェクト管理ツール環境の設定方法
  - ・ 課題・障害・WBS・工数のインポート、エクスポート方法、
  - ・ 定量データ収集、グラフ表示データ収集バッチ起動の方法
  - ・ 定量的プロジェクト管理ツール稼働環境のバックアップ、リストア方法
- の解説を行っています。



### 3 定量的プロジェクト管理ツールの環境設定

#### 3.1 定量的プロジェクト管理ツール稼働環境構築

一括インストーラによる **Windows** 環境、**Linux** 環境への定量的プロジェクト管理ツール環境の構築方法は「**D07-3 クイックスタートガイド（Redmine 版）**」を参照して下さい。

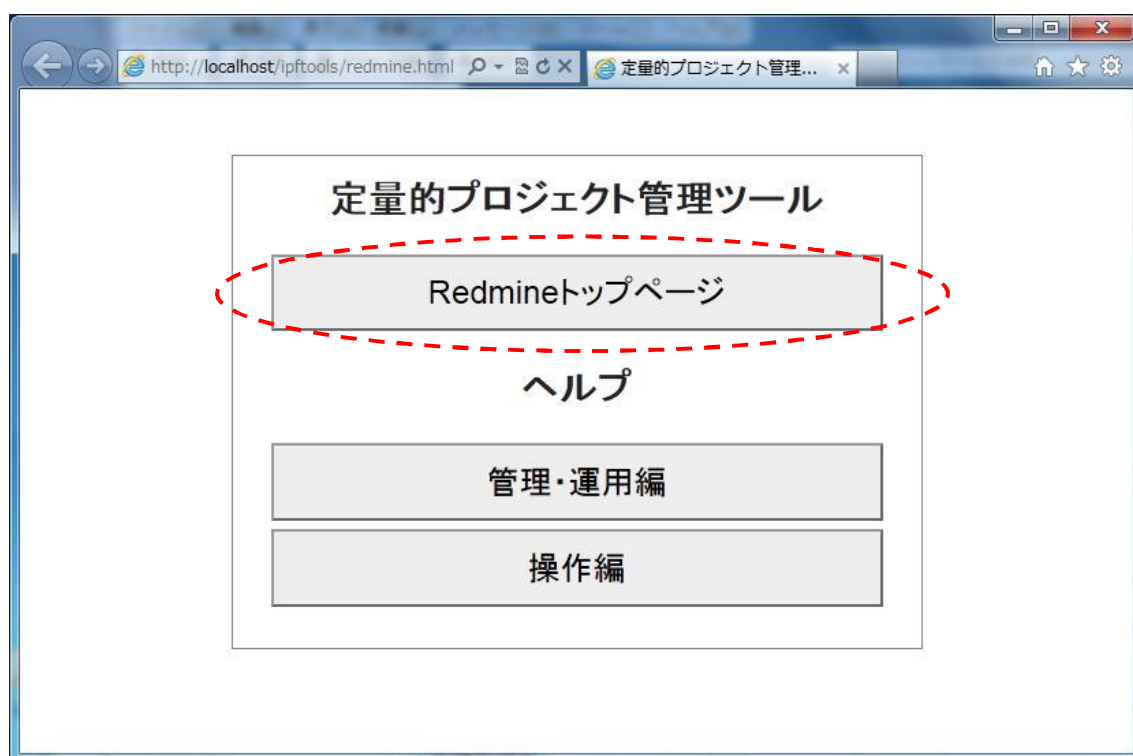
#### 3.2 プロジェクトの作成・削除、基本情報の設定

##### 3.2.1 プロジェクトの作成、プロジェクト基本情報の設定

ツール化実装 **Redmine** 版を起動し、管理者権限を持つユーザでログインしプロジェクトの作成を行います

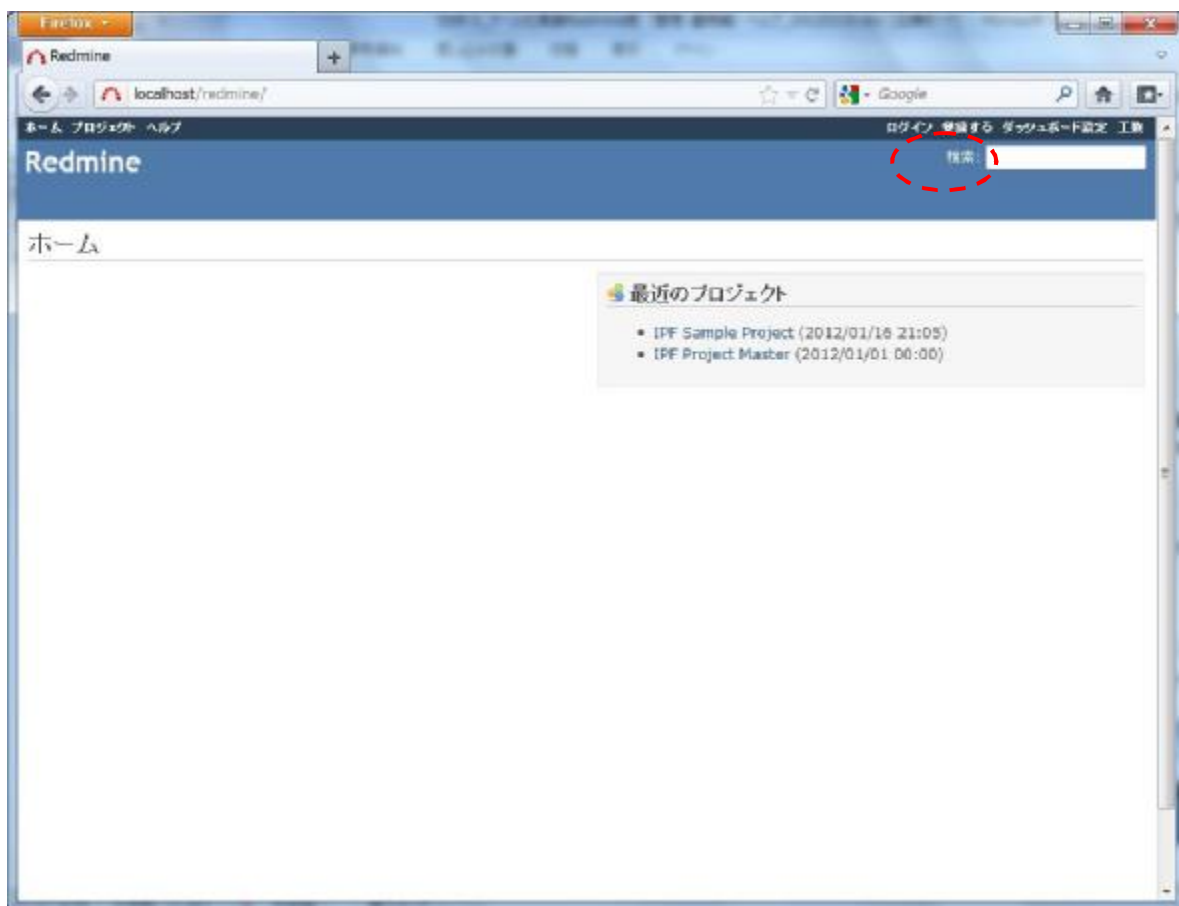
##### ① ツール化実装 **Redmine** 版の起動方法

URL (例) [http://\(Redmine 導入環境の IP\)/ipftools/redmine.html](http://(Redmine 導入環境の IP)/ipftools/redmine.html)



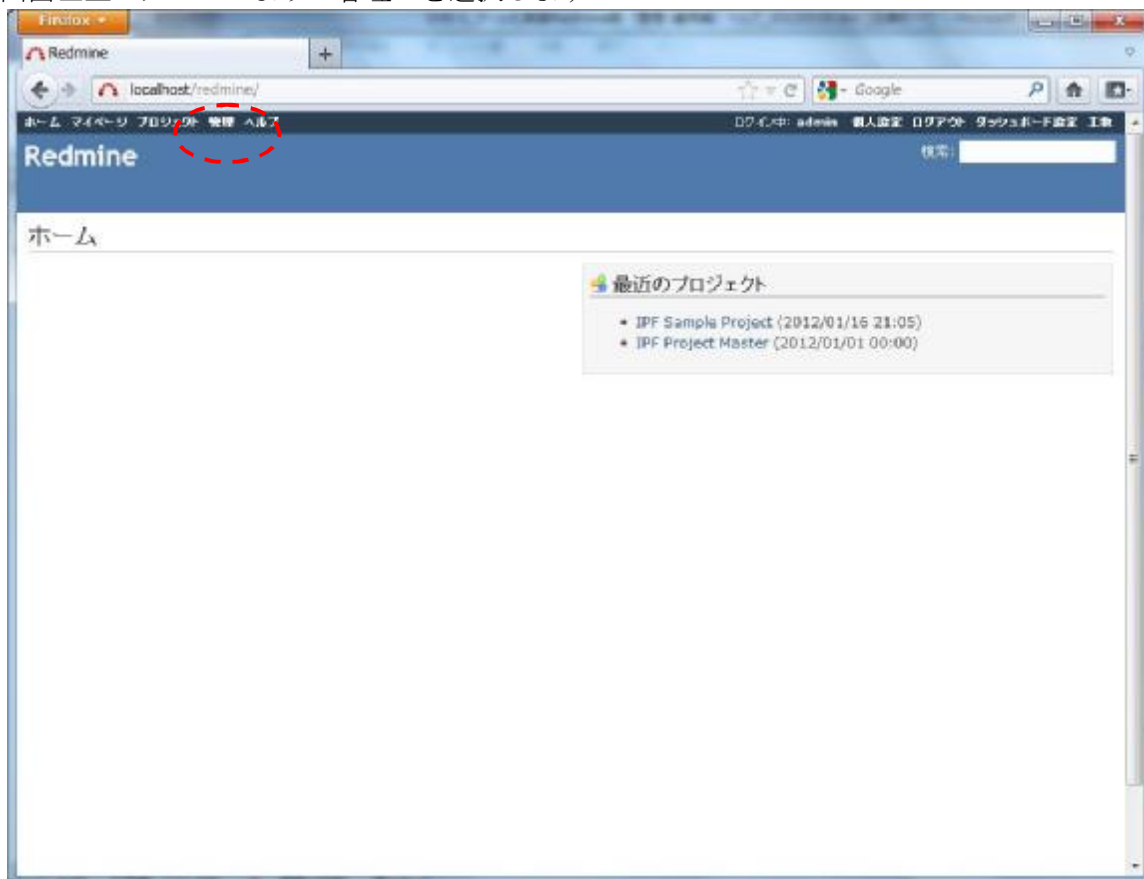
“**Redmine** トップページ” を押下して、**Redmine** トップページに遷移します。

- ② 画面右上の“ログイン”を押下して、管理者権限を持つユーザでログインを行います。

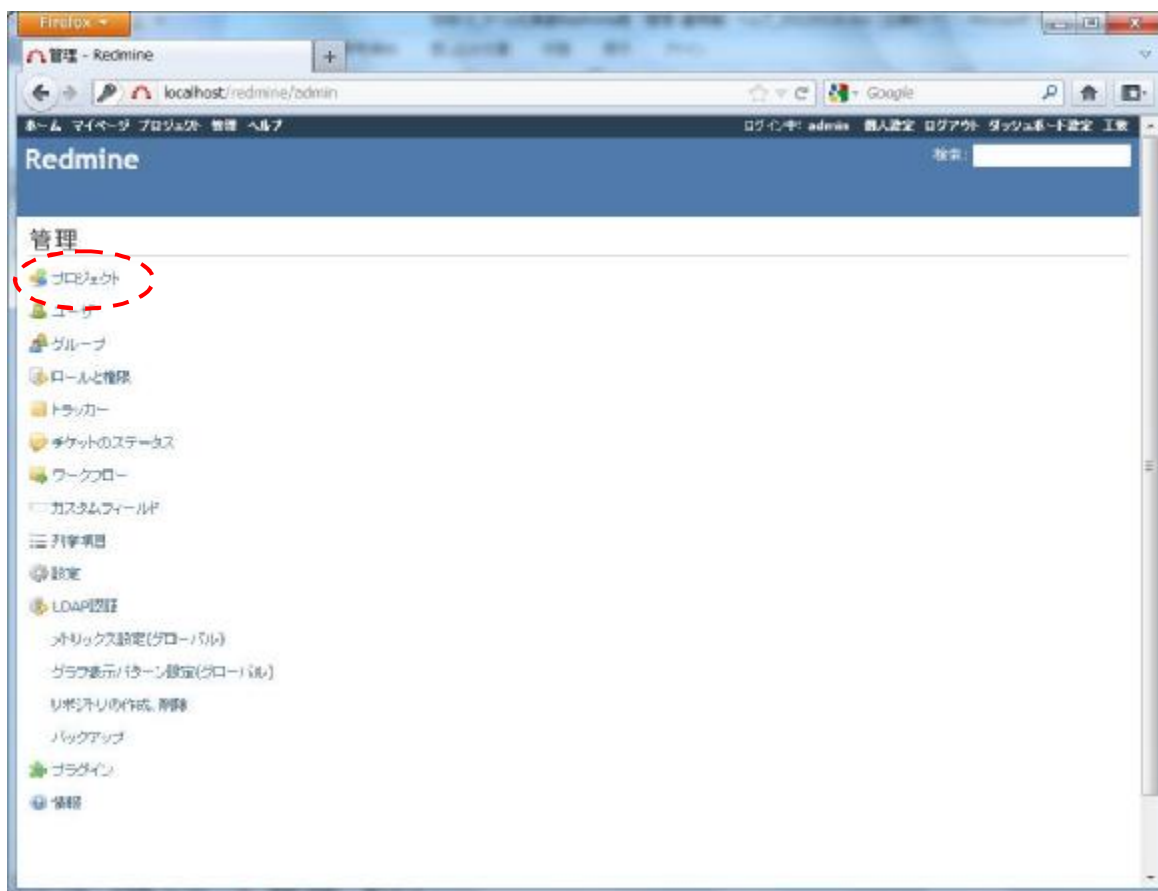




③ 画面左上のメニューより“管理”を選択します



④ 表示された管理画面より“プロジェクト”を選択します



- ⑤ **IPF** プロジェクトテンプレートをもとにプロジェクトを作成するため、“**IPF Project Master**”の右側の“コピー”を選択します



- ⑥ プロジェクト基本情報（名称、説明、識別子、開始・終了日等）を設定し、画面下部の“コピー”ボタンを押下します。

Firefox +

localhost/redmine/projects/\_ipfmasterproj\_/copy

ホーム マイページ プロジェクト 管理 ヘルプ ログイン中: admin 個人設定 ログアウト ユーザー設定 工数

## Redmine

### 新しいプロジェクト

名称 \* 定量的プロジェクト管理ツールの開発

プロジェクト名

説明

識別子 \*

ホームページ

公開 ☒

開始日 2011-04-01

終了日 2012-02-28

開発開始日 2011-06-01

開発終了日 2012-01-31

コピー

☒ メンバー (0)

☒ バージョン (0)

☒ チケットのカテゴリ (0)

☒ チケット (0)

☒ カスタムフィールド (0)

☒ フォーラム (0)

☒ Wikiページ (0)

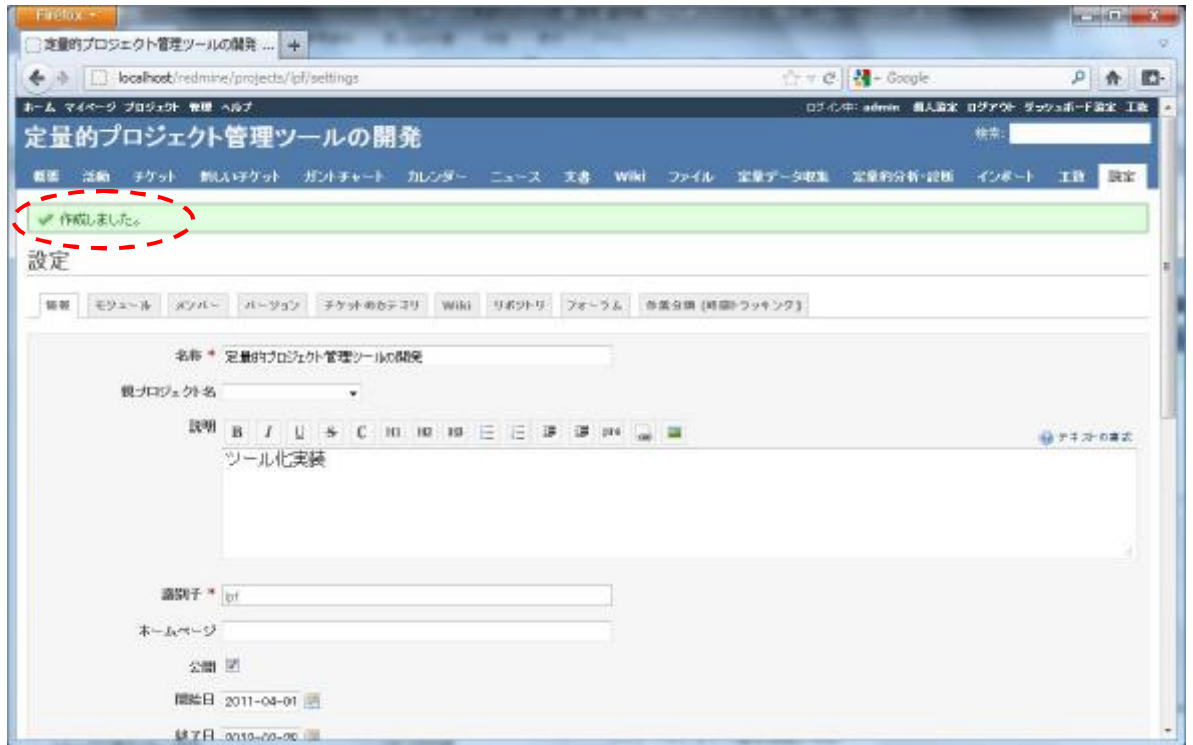
☐ コピーしたチケットのメール通知を送信する

コピー

中略

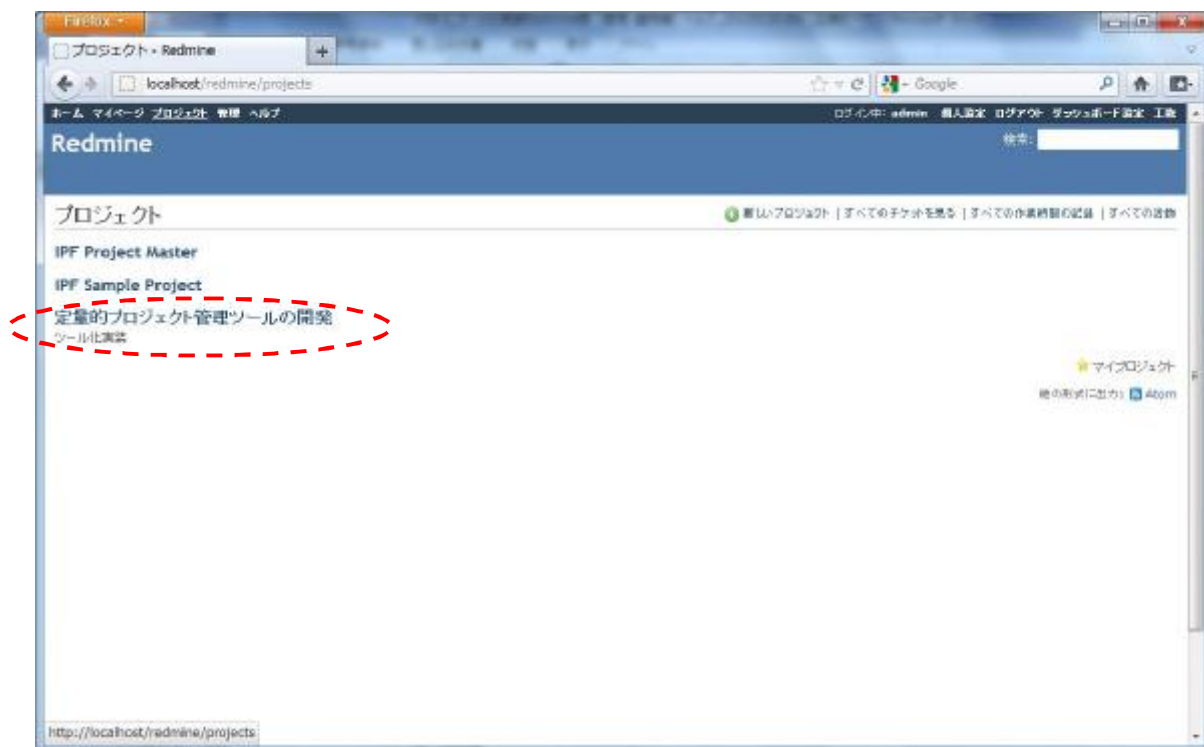
Powered by Redmine © 2006-2011 Jean-Philippe Lang

⑦ プロジェクト作成完了の確認をします

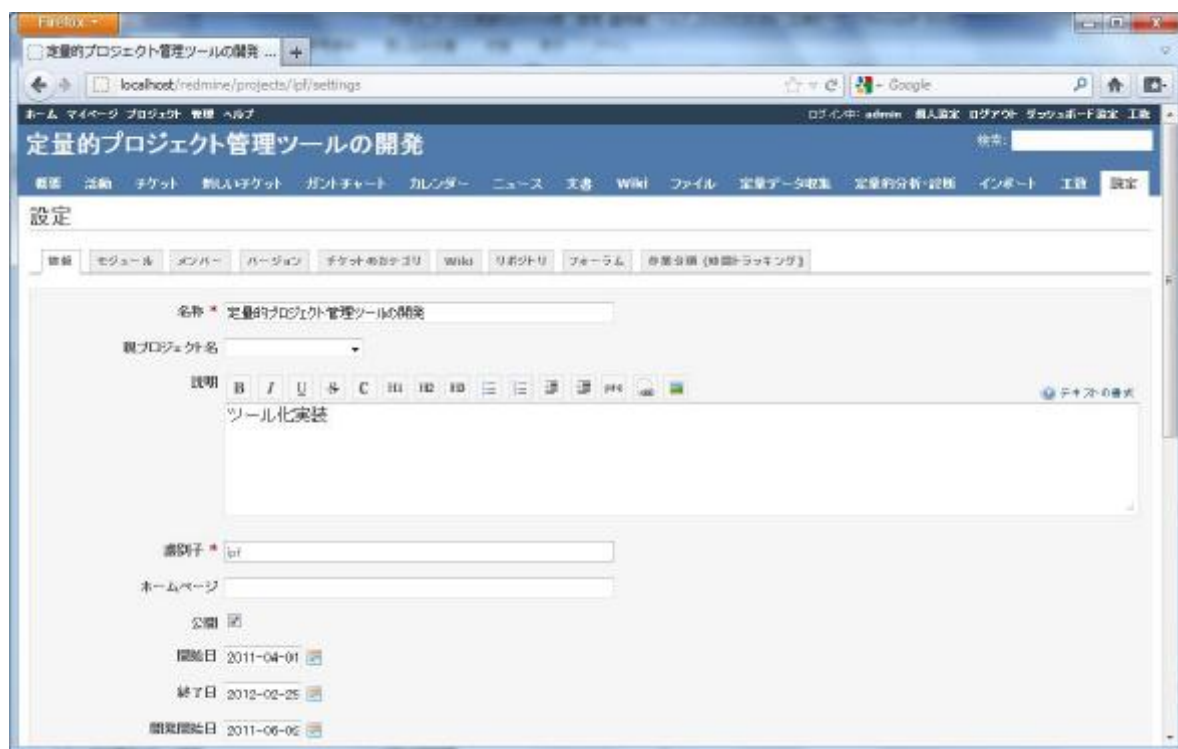


### 3.2.2 プロジェクト基本情報の修正

- ① 管理者権限を持つユーザでログイン後、左上のメニューより“プロジェクト”を押下することによりプロジェクト一覧が表示されます。一覧より、対象プロジェクトを選択します。



- ② メニューの右側に表示されている“設定”を押下すると下記の設定画面が表示されますので、情報タブに表示されているプロジェクト基本情報の変更を行うことができます。



## ③ プロジェクト基本情報／期間帯の設定

**R\_S11**（障害滞留状況）、**R\_S14**（長期未解決課題抽出）等のヒストグラム・グラフを表示する為に期間帯情報を定義する必要があります。期間帯情報はプロジェクト基本情報編集において、以下の形式で指定します。“**IPF Project Master**”よりプロジェクトを作成した場合は以下の期間情報がデフォルトで登録されていますので、必要に応じて修正を行ってください。

**A)** カスタムフィールドへの期間帯名称の定義

名称は“管理”⇒“カスタムフィールド”のプロジェクトタブにて、カスタムフィールドとして定義を行います。

**(ア)** 障害期間情報の指定方法（**R\_S11** で使用します）

命名規約）

名称	書式
TPERIOD_n(可変)_L:ラベル名称	整数
TPERIOD_n(可変)_U:ラベル名称	整数

**IPF Project Master** への設定情報）

名称
TPERIOD_1_L: 三日以上
TPERIOD_1_U: 三日以上
TPERIOD_2_L: 1週間以上
TPERIOD_2_U: 1週間以上
TPERIOD_3_L: 2週間以上
TPERIOD_3_U: 2週間以上
TPERIOD_4_L: 3週間以上
TPERIOD_4_U: 3週間以上

※ 表示名称の区切り文字に使用している“:”は半角で入力して下さい。

**(イ)** 課題期間情報の指定方法（**R\_S14** で使用します）

命名規約）

名称	書式
PPERIOD_n(可変)_L:ラベル名称	整数
PPERIOD_n(可変)_U:ラベル名称	整数

**IPF Project Master** への設定情報）

名称
PPERIOD_1_L: 三日以上
PPERIOD_1_U: 三日以上
PPERIOD_2_L: 1週間以上
PPERIOD_2_U: 1週間以上
PPERIOD_3_L: 2週間以上
PPERIOD_3_U: 2週間以上
PPERIOD_4_L: 3週間以上
PPERIOD_4_U: 3週間以上

Firefox \* 開発者 - チケット - Redmine \* カスタムフィールド - Redmine \* 小

192.168.1.67/redmine/custom\_fields

ホーム マイページ プロジェクト 管理 ヘルプ ログイン: admin 個人設定 ログアウト ダッシュボード設定 工数

## Redmine

検索:

### カスタムフィールド

チケット 作業時間の記録 プロジェクト バージョン ユーザ グループ 作業分画 (時間トラッキング) チケットの優先度 文書カテゴリ

名称	書式	必須	ソート	
開始日	日付		昇順	削除
終了日	日付		昇順	削除
開始時間日	日付		昇順	削除
開始時刻	日付		昇順	削除
障害発生日	リストから選択	<input checked="" type="checkbox"/>	昇順	削除
復旧日	リストから選択	<input checked="" type="checkbox"/>	昇順	削除
TPERIOD_1_1:三日以上	数値		昇順	削除
TPERIOD_1_U:三日以上	数値		昇順	削除
TPERIOD_2_1:1週間以上	数値		昇順	削除
TPERIOD_2_U:1週間以上	数値		昇順	削除
TPERIOD_3_1:2週間以上	数値		昇順	削除
TPERIOD_3_U:2週間以上	数値		昇順	削除
TPERIOD_4_1:3週間以上	数値		昇順	削除
TPERIOD_4_U:3週間以上	数値		昇順	削除
PPERIOD_1_1:三日以上	数値		昇順	削除
PPERIOD_1_U:三日以上	数値		昇順	削除
PPERIOD_2_1:1週間以上	数値		昇順	削除
PPERIOD_2_U:1週間以上	数値		昇順	削除
PPERIOD_3_1:2週間以上	数値		昇順	削除
PPERIOD_3_U:2週間以上	数値		昇順	削除
PPERIOD_4_1:3週間以上	数値		昇順	削除
PPERIOD_4_U:3週間以上	数値		昇順	削除

新しいカスタムフィールドを作成

管理

- プロジェクト
- ユーザ
- グループ
- メールと通知
- トフッカー
- チケットのステータス
- ワークフロー
- カスタムフィールド
- 列挙項目
- 設定
- LDAP認証
- メトリクス設定(グローバル)
- グラフ表示(カーネル設定(グローバル))
- リポジトリの作成、管理
- バックアップ
- つづき
- 情報

## B) プロジェクト基本情報の設定

## (ア) 障害期間情報の指定方法（R\_S11 で使用します）

「A) カスタムフィールドへの期間名称の定義」にて定義した障害期間帯名称に値の設定を行います。

指定例)

名称	値
TPERIOD_1_L: 三日以上	3
TPERIOD_1_U: 三日以上	6
TPERIOD_2_L: 1週間以上	7
TPERIOD_2_U: 1週間以上	13
TPERIOD_3_L: 2週間以上	14
TPERIOD_3_U: 2週間以上	20
TPERIOD_4_L: 3週間以上	21
TPERIOD_4_U: 3週間以上	9999

※ 上記期間帯の判定に使用する障害起算日を障害チケットに入力された“開始予定日”、または“終了予定日”を使用するか、プロジェクト基本情報の“障害起算日”に指定します。

## (イ) 課題期間情報の指定方法（R\_S14 で使用します）

「A) カスタムフィールドへの期間名称の定義」にて定義した課題期間帯名称に値の設定を行います。

指定例)

名称	値
PPERIOD_1_L: 三日以上	3
PPERIOD_1_U: 三日以上	6
PPERIOD_2_L: 1週間以上	7
PPERIOD_2_U: 1週間以上	13
PPERIOD_3_L: 2週間以上	14
PPERIOD_3_U: 2週間以上	20
PPERIOD_4_L: 3週間以上	21
PPERIOD_4_U: 3週間以上	9999

※ 上記期間帯の判定に使用する課題起算日を課題チケットに入力された“開始予定日”、または“終了予定日”を使用するか、プロジェクト基本情報の“課題起算日”に指定します。



The screenshot shows the Redmine web interface. The browser address bar displays '192.168.1.67/redmine/projects/pl/settings'. The page title is '定量的プロジェクト管理ツールの開発'. The navigation bar includes links like 'ホーム', 'マイページ', 'プロジェクト', '管理', 'ヘルプ', and a search bar. The '設定' (Settings) tab is active, showing various configuration options for the project.

**設定**

名前: 定量的プロジェクト管理ツールの開発

親プロジェクト名: [選択]

説明: ツール化実装Trac、Redmine版の開発

識別子: 101

ホームページ: [入力欄]

公開: ☒

開始日: 2011-09-01

終了日: 2012-02-26

開発開始日: 2011-06-01

開発終了日: [入力欄]

TPERIOD\_1\_L: 3日以上 3

TPERIOD\_1\_U: 3日以上 6

TPERIOD\_2\_L: 1週間以上 7

TPERIOD\_2\_U: 1週間以上 13

TPERIOD\_3\_L: 2週間以上 14

TPERIOD\_3\_U: 2週間以上 20

TPERIOD\_4\_L: 3週間以上 21

TPERIOD\_4\_U: 3週間以上 9999

PPERIOD\_1\_L: 3日以上 3

PPERIOD\_1\_U: 3日以上 6

PPERIOD\_2\_L: 1週間以上 7

PPERIOD\_2\_U: 1週間以上 13

PPERIOD\_3\_L: 2週間以上 14

PPERIOD\_3\_U: 2週間以上 20

PPERIOD\_4\_L: 3週間以上 21

PPERIOD\_4\_U: 3週間以上 9999

トラッカー: ☒ WBS ☒ 課題 ☒ 障害

カスタムフィールド: ☒ 重要度 ☒ 試験設計書 ☒ 試験計画 ☒ 試験結果 ☒ SLOC計画値 ☒ 想定バグ数 ☒ 試験項目密度指標値\_上限値 ☒ 開始日(東洋) ☒ 試験項目密度指標値\_下限値 ☒ グループ ☒ コンポーネント ☒ 報告者 ☒ 関係者 ☒ マイルストーン ☒ 状況 ☒ キーワード ☒ 原因分類 ☒ WBS番号 ☒ 関連チケット

保存

中略

Powered by Redmine © 2006-2011 Jean-Philippe Lang

### 3.2.3 プロジェクトの削除

メニュー上の“管理”⇒プロジェクトより、プロジェクトの削除を行う事が出来ます。

- ① プロジェクト一覧画面で削除したいプロジェクトの右側に表示されている“削除”を押下すると以下の確認画面が表示されます。“はい”をチェックして“削除”ボタンを押下するとプロジェクトが削除されます。



- ② プロジェクト一覧画面でプロジェクトが削除されたことを確認します。



### 3.3 定量データ種別の設定

トラッカーと定量データ種別の対応はプロジェクトテンプレートにデフォルト設定されています。設定の変更を行う場合は以下の手順を実施して下さい。

#### 【初期設定内容】

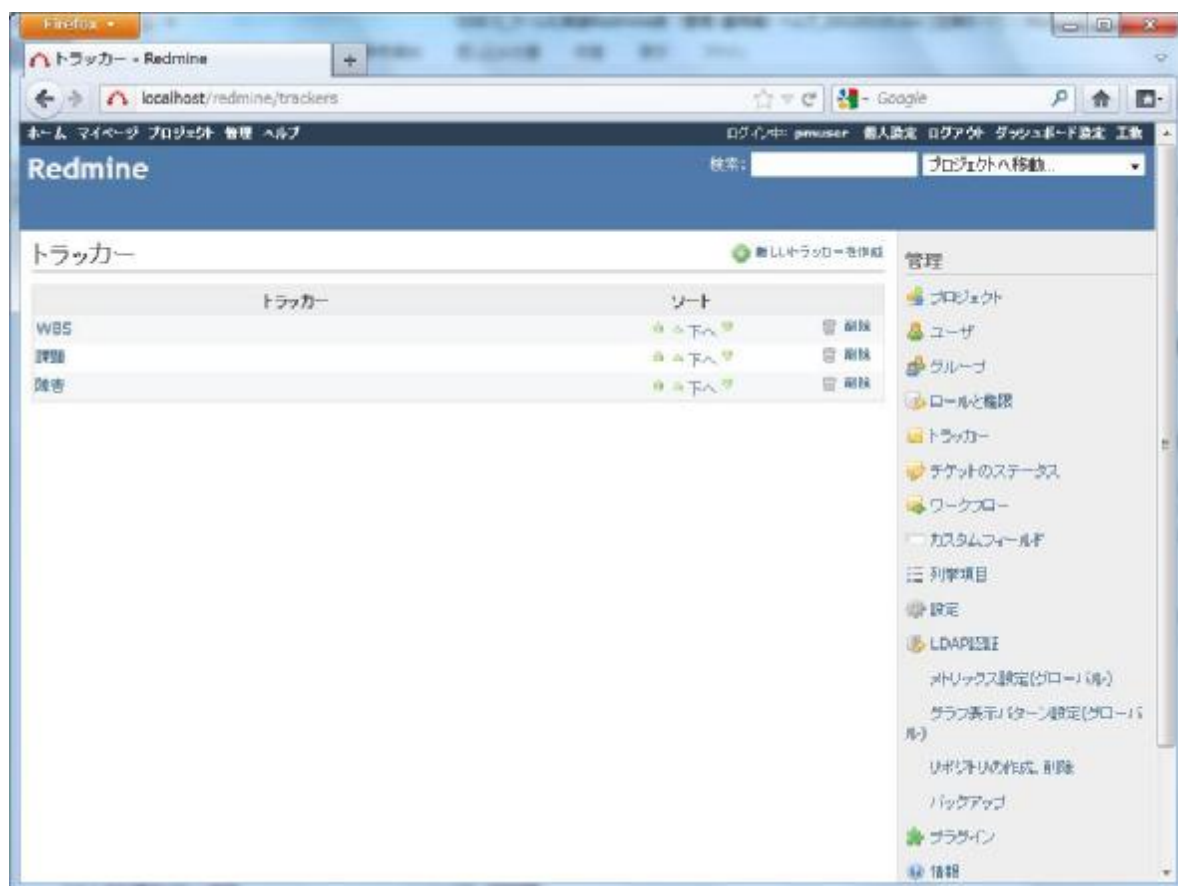
トラッカー	定量データ種別
WBS	WBS
障害	障害
課題	課題

#### 3.3.1 トラッカーの設定

チケットに設定するトラッカー（WBS、障害、課題、他）は以下の方法で定義します。

##### ① トラッカーの設定

“管理” ⇒ “トラッカー” よりトラッカーの設定画面を開きます。



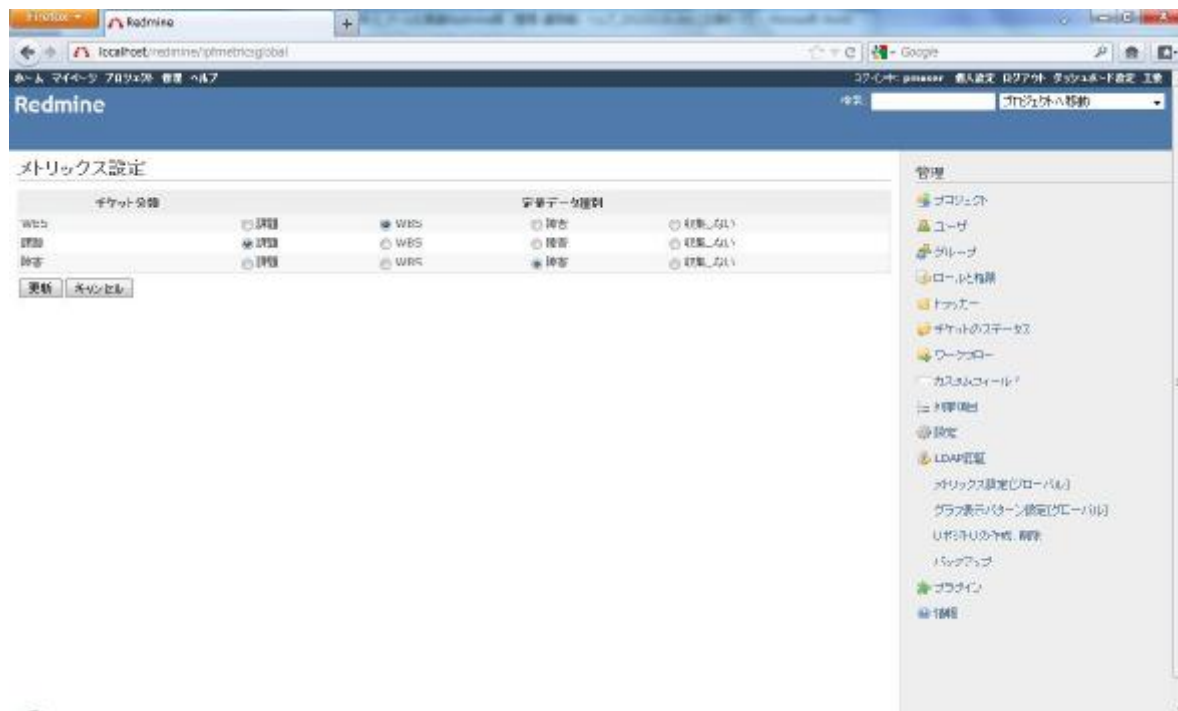
- ü トラッカーを追加する場合は“新しいトラッカーを作成”を押下し、新規トラッカーの定義を行います。新規トラッカーにはワークフローを定義する必要がありますが、“ワークフローをここからコピー”により既存の類似トラッカーよりワークフローをコピーすると容易に定義を行う事が出来ます。
- ü 既存のトラッカーを変更する場合は既存のトラッカー名称をクリックすることにより、変更を行うことができます。

### 3.3.2 定量データ収集条件の設定

チケットに設定するトラッカーと定量データ収集種別の対応は、グローバル設定とプロジェクト設定にて定義します。グローバル設定は全プロジェクトのデフォルト値となり、プロジェクト設定は定義したプロジェクト内でのみで有効です。

#### ① 定量データ種別の設定（グローバル設定）

“管理” ⇒ “メトリックス設定（グローバル）” よりチケット分類（トラッカー）と定量データ種別の対応の設定を行います。



## ② 定量データ種別の設定（プロジェクト設定）

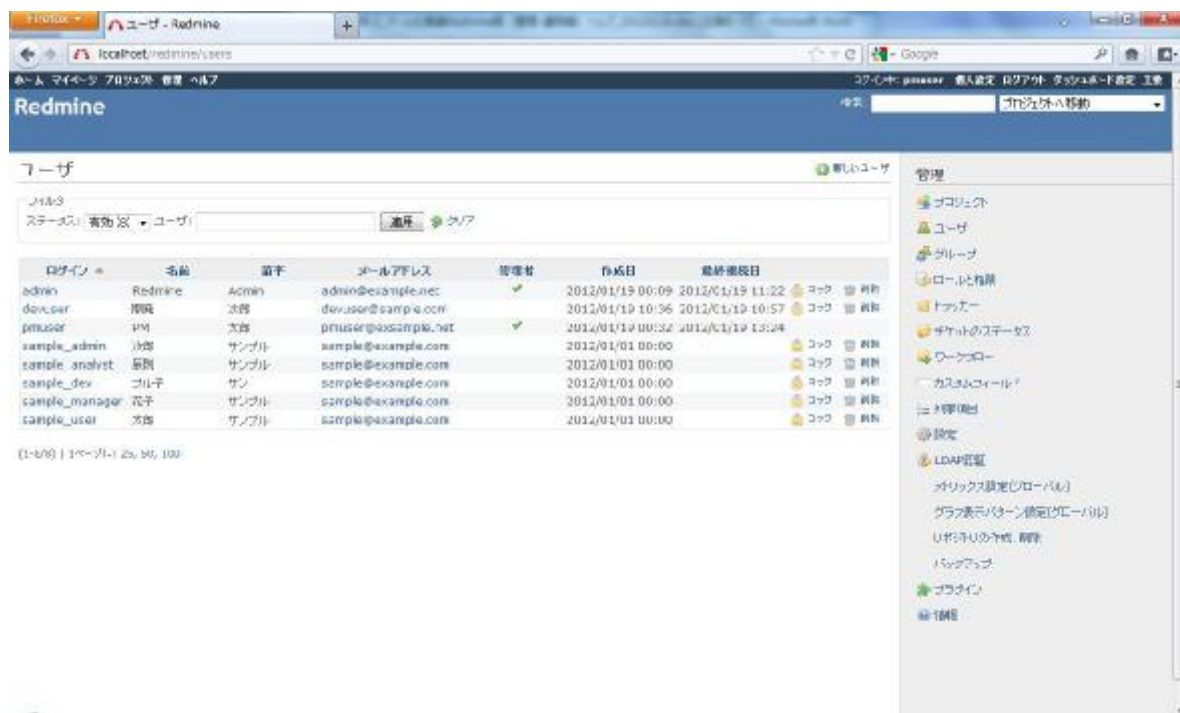
グローバル設定で設定された定量データ種別の設定は、プロジェクト毎に定義を変更できます。プロジェクト管理者ロールを持つユーザでログインし、各プロジェクトの“設定タブ”より“メトリックス設定（プロジェクト）”を選択し、チケット分類と定量データ種別の設定を行って下さい。



## 3.4 ユーザの作成、権限、参加プロジェクトの設定

### 3.4.1 ユーザの作成、権限の付与、参加プロジェクトの設定

- ① “管理” ⇒ “ユーザ” を押下すると、既存ユーザの一覧が表示されます。

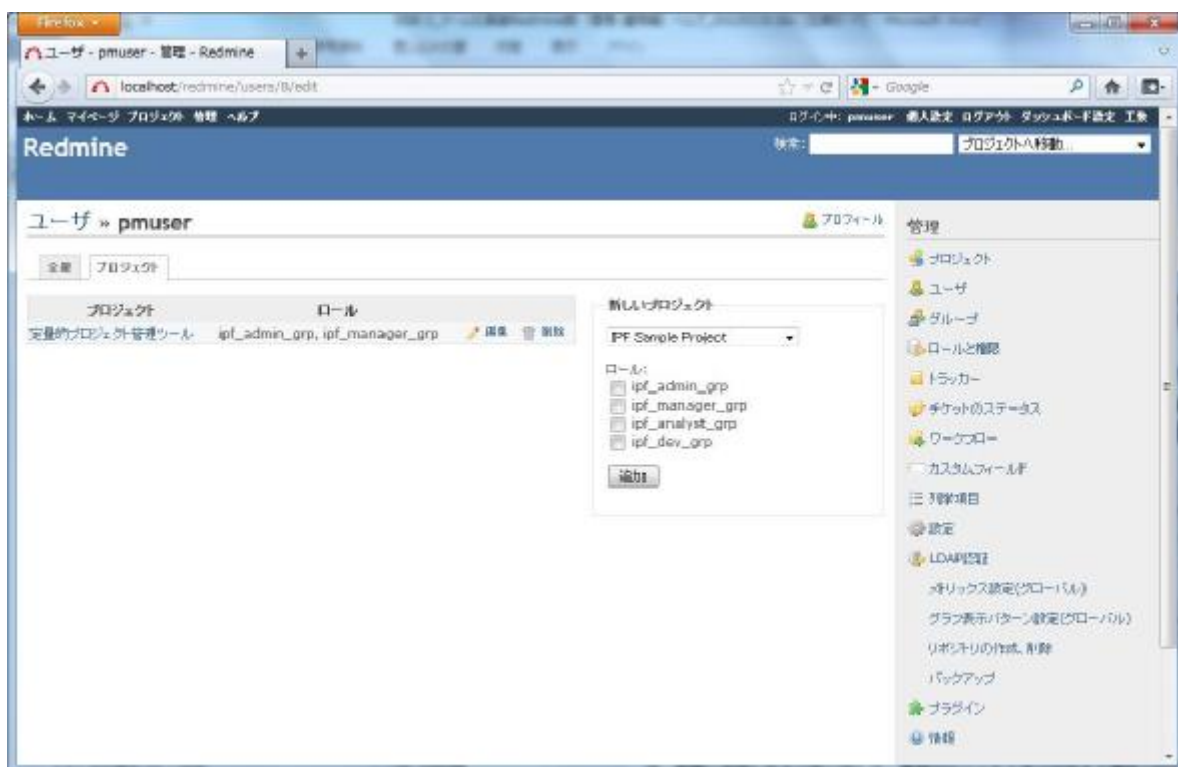


- ② 新規ユーザを登録する際は、右上の“新しいユーザ”をクリックし、表示された画面にログインID、名前、苗字、メールアドレス、パスワードの設定を行います。設定完了後に“作成”ボタンを押下します。





- ③ 新規に作成したユーザに対して、プロジェクトタブより参加プロジェクト及び付与するロールの設定を行います。



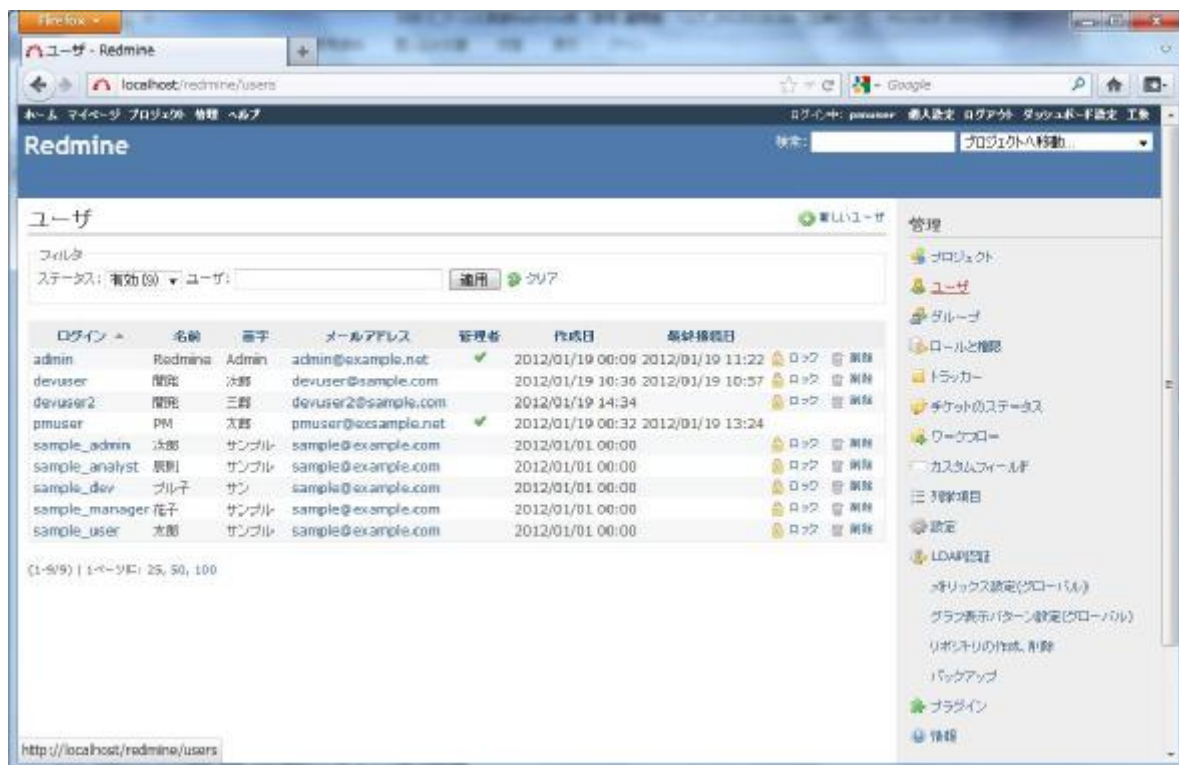
ロールは以下の基準で付与します。各権限の詳細は「D03-3 ツール化実装 Redmine 版・基本設計書」“6. ユーザ認証・権限管理 (4)IPF 独自の権限、グループ”を参照してください。

- ü **ipf\_admin\_grp** : サーバ管理者
- ü **ipf\_manager\_grp** : プロジェクト管理者
- ü **ipf\_analyst\_grp** : プロジェクト分析者（PMO 等）
- ü **ipf\_dev\_grp** : 開発者
- ※ 画面左上に表示される“管理”機能を利用するためには上記権限の他に“管理者”の属性が必要になります。管理者属性は“管理”⇒“ユーザ”にて各ユーザの設定で管理者チェックボックスを選択することにより付与されます。
- ※ 管理者権限が必要な主な機能
  - l プロジェクトの作成、削除
  - l ユーザの作成、削除
  - l ロールと権限の付与
  - l トラッカーの設定
  - l カスタムフィールド定義
  - l メトリックス設定、グラフ表示パターンのグローバル設定
  - l バックアップ機能
- ※ 新規にロールを追加した場合、“管理”⇒“ロールと権限”⇒“権限レポート”を表示する事により、既存のロールと権限を容易に合わせるができます。

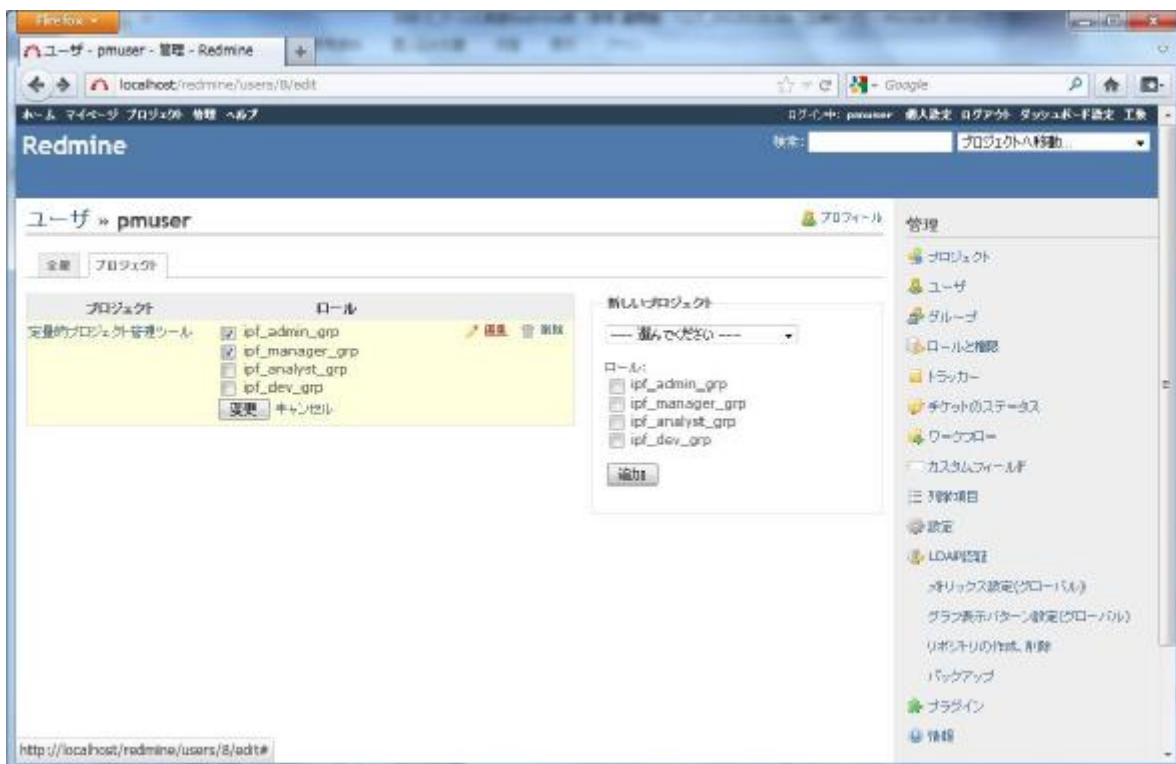
## 3.4.2 既存ユーザの権限変更、プロジェクトの追加

既存ユーザのロールの変更、参加プロジェクトの変更を行う際は、以下の手順を実行します。

- ① “管理” ⇒ “ユーザ” を押下し、既存ユーザの一覧を表示します。



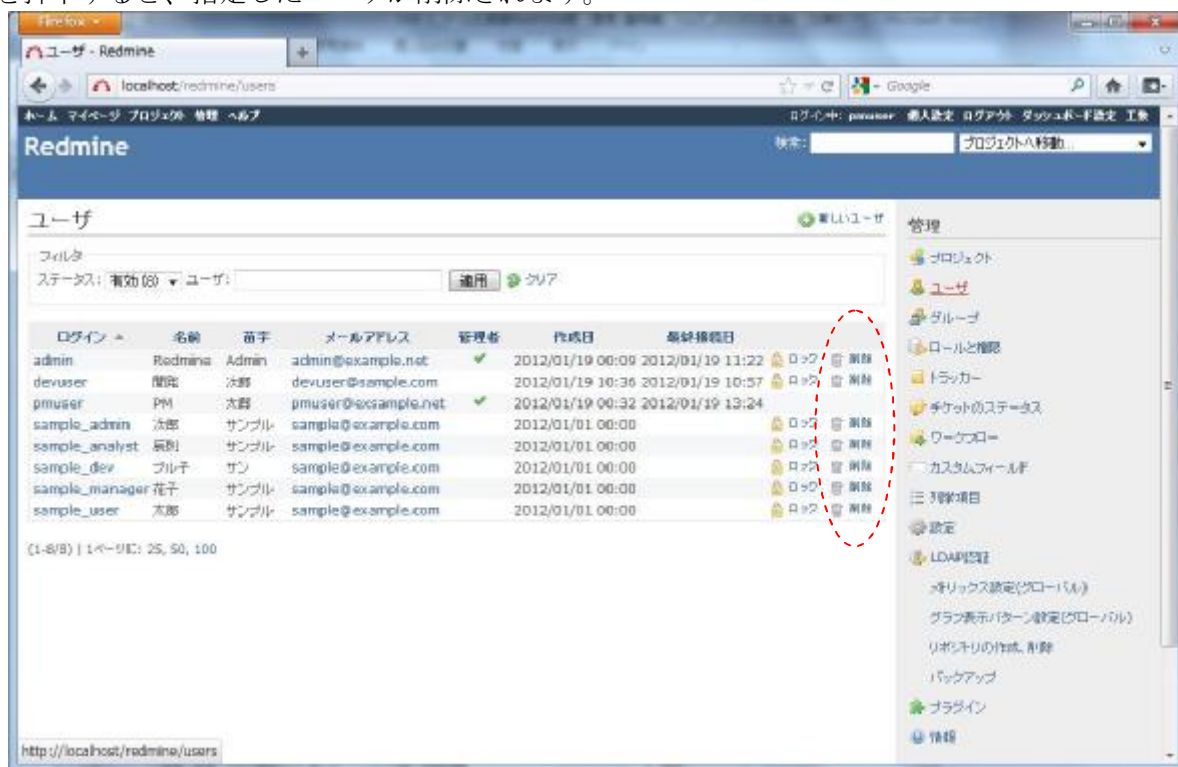
- ② 変更を行うユーザをクリックし、登録情報、及びロールの変更を行います。





### 3.4.3 ユーザの削除

“管理” ⇒ “ユーザ” にて表示されるユーザ画面で、削除対象のユーザの右側にある「削除」を押下すると、指定したユーザが削除されます。

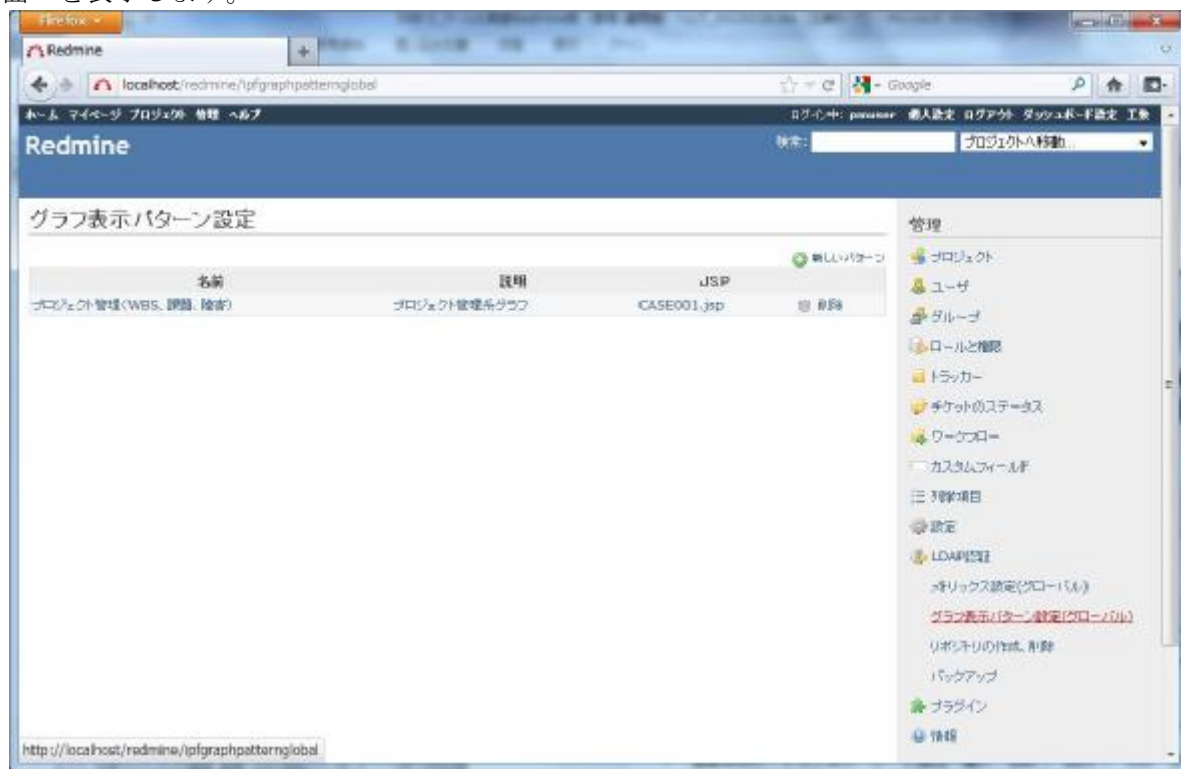


※ 定量データの収集対象のチケット上に削除対象ユーザが記載されている場合、Redmine 上からそのユーザを削除すると定量データ収集時にエラーが発生し、収集を行う事が出来なくなります。そのため、プロジェクトが終了していない場合は、ユーザの削除ではなくユーザ属性の変更により、各プロジェクトにアクセスする権限の削除、及びパスワードの変更等を行って下さい。

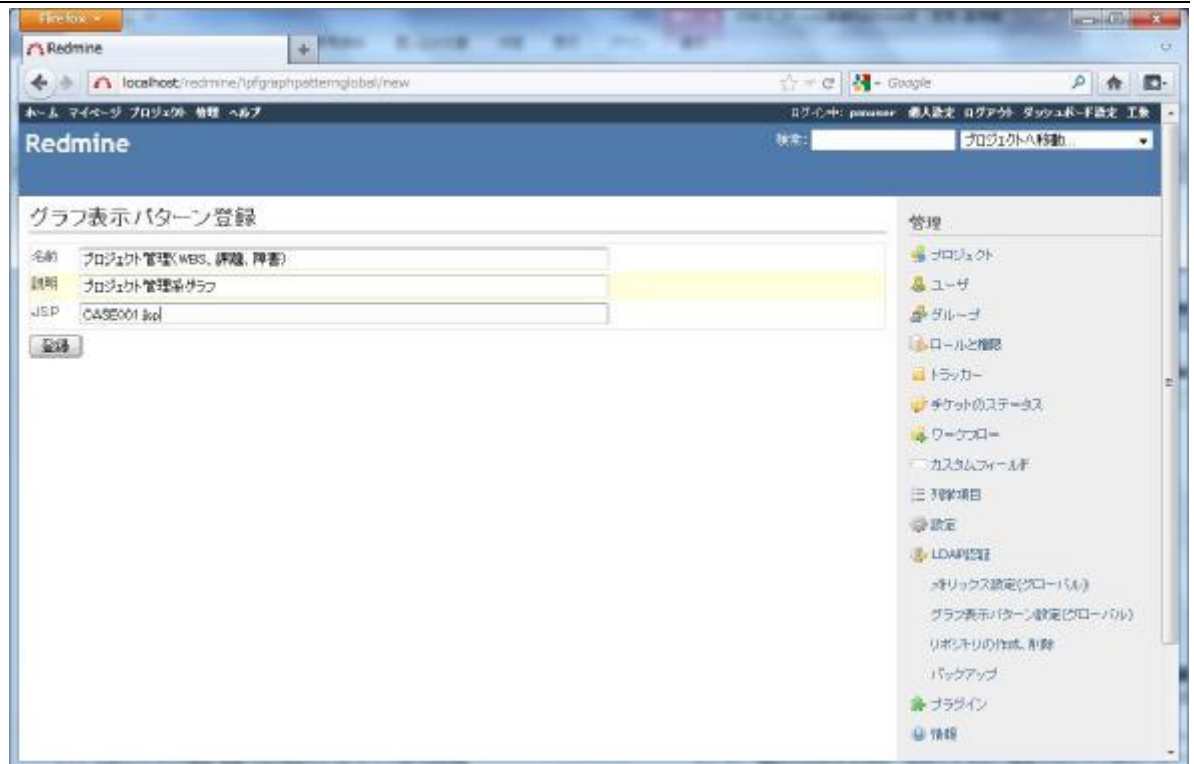
### 3.5 グラフ表示パターン設定

#### 3.5.1 グラフ表示パターン設定（グローバル設定）

- ① “管理” ⇒ “グラフ表示パターン設定(グローバル)”により “グラフ表示パターン設定画面”を表示します。



- ü グラフ表示パターン設定の各パターン名の右側に表示されている “削除”を押下すると、指定したグラフ表示パターンが削除されます。
  - ü 名前、説明を変更することができます。
  - ü 名称はグラフ表示パターン選択の際のキー情報となります。
- ② 新規グラフ表示パターンを登録する場合は、右上の “新しいパターン” を押下し、グラフ表示パターン情報を登録します。



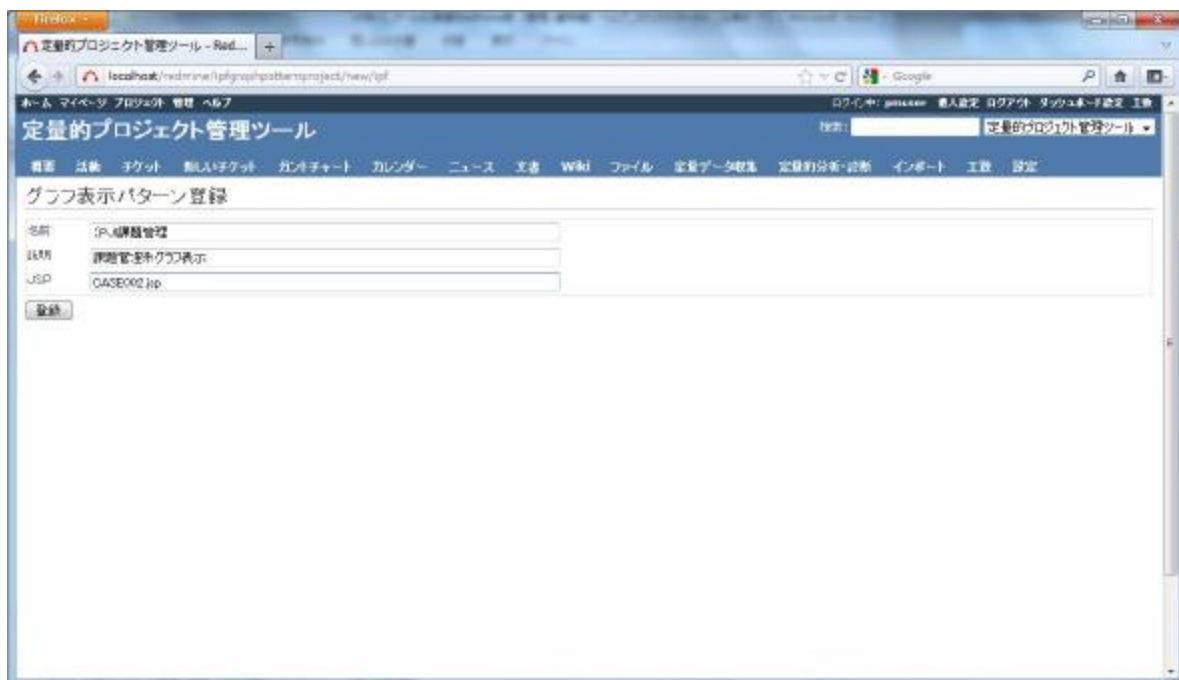
- ü “グラフ表示パターン登録画面で” “名前”、“説明”、“JSP” を設定後、“登録” ボタンを押下するとグラフ表示パターンが追加されます。

## 3.5.2 グラフ表示パターン設定（プロジェクト設定）

- ① プロジェクト管理者ロールを持つユーザでログインし、各プロジェクトで“設定 “⇒” グラフ表示パターン設定(プロジェクト)”により“グラフ表示パターン設定画面”を表示します。この画面では名前、説明を変更することができます。



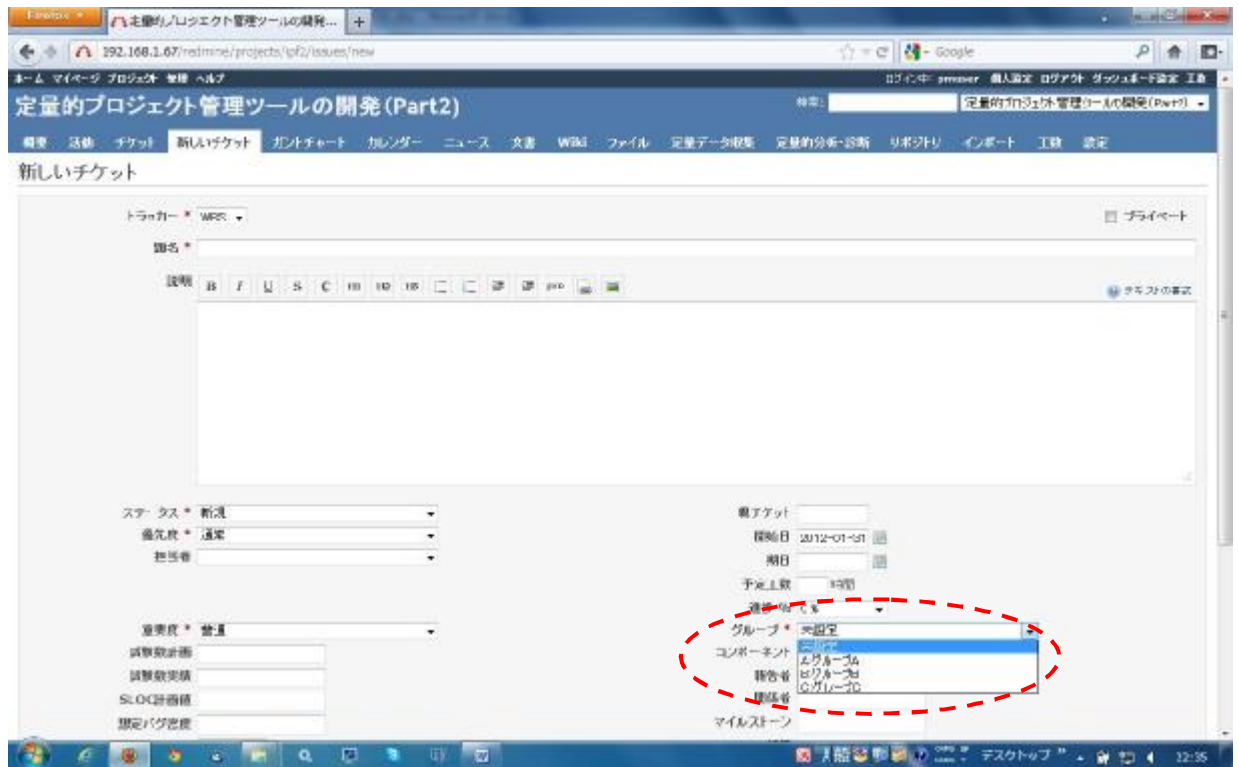
- ü グラフ表示パターン設定の各パターン名の右側に表示されている“削除”を押下すると、指定したグラフ表示パターンが削除されます。
  - ü 名前、説明を変更することができます。
  - ü 名称はグラフ表示パターン選択の際のキー情報となります。
- ② 新規グラフ表示パターンを登録する場合は、右上の“新しいパターン”を押下し、グラフ表示パターン情報を登録します。



“グラフ表示パターン登録画面で”“名前”、“説明”、“JSP”を設定後、“登録”ボタンを押下するとグラフ表示パターンが追加されます。

### 3.6 グループ（カスタムフィールド）の変更方法

WBS チケットにはカスタムフィールドとしてのグループに初期値が設定されていますが、実プロジェクトの運用に併せて設定を変更することができます。



- ① プロジェクト管理者ロールを持つユーザでログインし、“管理 “ ⇒ ” カスタムフィールド “ ⇒ ” グループ “ を選択します。” 選択肢 “欄にグループの初期値が設定されていますので、適切な値を設定後に” 保存 “ボタンを押下して下さい。設定が反映されます。



### 3.7 グラフ履歴機能

グラフ履歴機能は、Redmine の WiKi ページ上より定量的分析・診断機能で保存したグラフ履歴データの閲覧を行う機能です。

- ① グラフ履歴機能を使う為には、利用者端末と IPF サーバ間でファイル共有を行う為にネットワークドライブ等の設定が必要です。共有フォルダを IPF サーバ上の Redmine より参照するため、Apache 設定ファイル（httpd.conf）に以下の設定を行います。

（Windows 環境での設定例）

```
Alias /history "c:/ipf/history"
```

```
<Directory "c:/ipf/history/">
```

```
Options Indexes MultiViews FollowSymLinks
```

```
AllowOverride None
```

```
Order deny,allow
```

```
Allow from all
```

```
</Directory>
```

- ② グラフ履歴の表示を行う各プロジェクト用 Redmine に管理者権限でログインし、WiKi ページにて“このページを編集”を押下し、WiKi ページの編集を行います。

【WiKi ページの編集例】

・ WiKi トップページ

h1. WiKi

h2. [[グラフ履歴フォルダ]]

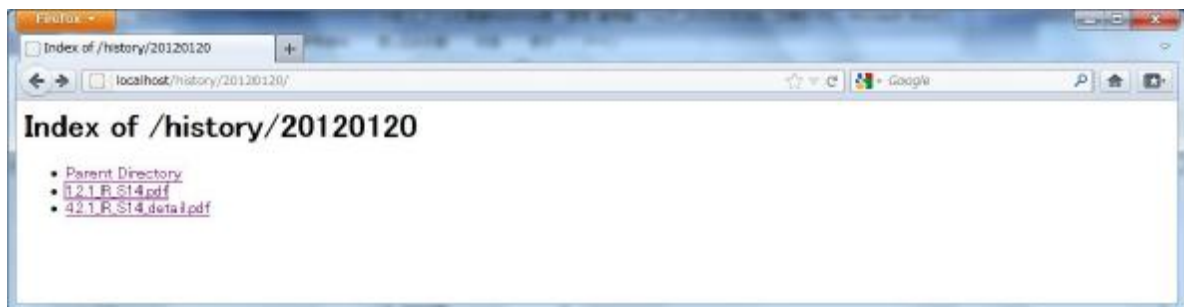
・ グラフ履歴ページ

h1. グラフ履歴フォルダ

\* "グラフ履歴":http://（Redmine 導入環境の IP）/history



## グラフ履歴の表示例



## 4 課題・障害・WBS、工数のインポート、エクスポート

### 4.1 外部ファイルからの課題・障害・WBS、工数情報のインポート

#### 4.1.1 外部ファイルからの課題・障害・WBS 情報のインポート

**Redmine** にプロジェクト管理者権限でログインし、対象プロジェクトを選択後に“インポート”を押下します。以下の形式のファイルから、インポートを行う事が出来ます。

- CSV 形式 ⇒ WBS、課題、障害チケット
- Excel2003 形式 ⇒ WBS、課題、障害チケット
- Excel2007 形式 ⇒ WBS、課題、障害チケット
- XML 形式 (MS Project) ⇒ WBS チケット

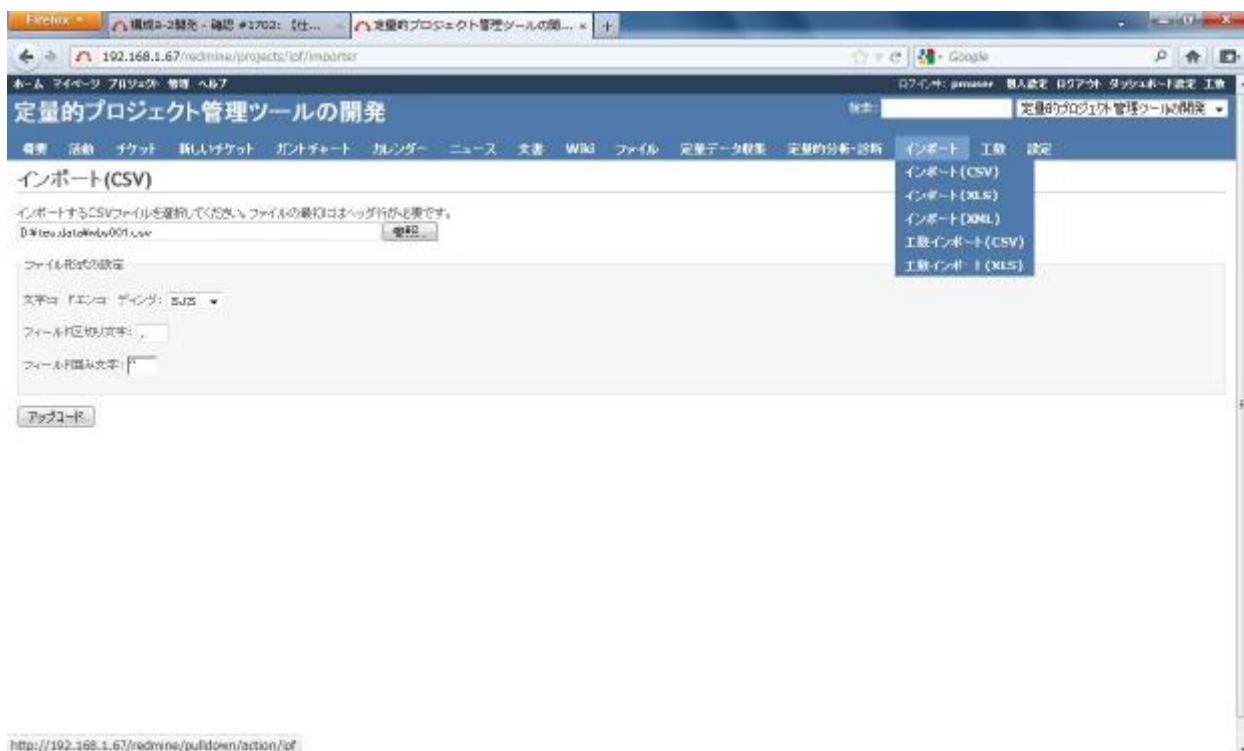


- ※ CSV 形式、Excel 形式のインポートファイルのフォーマットは、「4. 2 外部ファイルへの課題・障害・WBS、工数情報のエクスポート」を参照して、既存チケットをエクスポートしたファイルをテンプレートとして使用することをお勧めします。
- ※ CSV 形式のファイルを Excel で編集すると、日付の書式が変わり、そのままではインポート実行時にエラーとなります。CSV ファイルはテキストエディタ等で編集を行って下さい。
- ※ XLSX 形式を使用する時は、開始日などの日付のセルの書式の分類は、ユーザ定義だとエラーになります。日付形式にして下さい。



## 4.1.1.1 CSV 形式での課題・障害・WBS 情報のインポート

- ① “インポート” ⇒ “インポート (CSV)” を選択します。



- ② インポートする CSV ファイル名、文字コード等を指定し、“アップロード” ボタンを押下します。“対応するフィールドの選択”などを設定後に”送信”ボタンを押下します。



- ※ インポート時に“プロジェクト名”の指定、“他プロジェクトのチケット更新を許可する”がチェックされていると、他プロジェクトのチケットが更新されますので注意して下さい。

- ③ 結果の確認を行います。以下の画面が表示されれば正常にインポートが行われています。



## 4.1.1.2 XLS 形式での課題・障害・WBS 情報のインポート

- ① “インポート” ⇒ “インポート (XLS)” を選択します。



- ② インポートする **Excel** ファイル名 (**xls** 形式、**xlsx** 形式) を指定し、“アップロード” ボタンを押下します。“対応するフィールドの選択 “などを設定後に” 送信 “ボタンを押下します。下記画面で” シート名 “を選択し、再度” 送信 “ボタンを押下します。



- ③ “対応するフィールドの選択”などを設定後に”送信”ボタンを押下します。

列のマッチング

#:	チケットID	SLOC計画値:	SLOC計画値	WBS番号:	WBS番号	カテゴリ:	カテゴリ
キーワード:	キーワード	グループ:	グループ	コンポーネント:	コンポーネント	ステータス:	ステータス
トラッカー:	トラッカー	プロジェクト:	プロジェクト	マイルストーン:	マイルストーン	予定工数:	予定工数
作成日:	無視	作成者:	作成者	優先度:	優先度	原因分類:	原因分類
報告者:	報告者	対応バージョン:	対応バージョン	想定バグ密度:	想定バグ密度	担当者:	担当者
更新日:	無視	期日:	期日	状況:	状況	終了日(実績):	無視
親チケット:	親チケット	試験計画:	試験計画	試験計画:	試験計画	試験項目密度指標_上界値:	試験項目密度指標_上界値
	試験項目密度指標_下界値:	説明:	説明	進捗率:	進捗率	重要度:	重要度
	試験項目密度指標_下界値:	開始日(実績):	無視	関係者:	関係者	関連チケット:	関連チケット
開始日:	開始日						
署名:	署名						

インポートルール

デフォルトのトラッカー: WBS

☒ 既存のチケットを更新する

チケットの格納コンテナフィールド: #

参照として使用するフィールド: 無視

☐ 他プロジェクトのチケット更新を許可する

☐ 存在しないチケットの指定を無視する

送信

wb0001.xlsの先頭:

#	SLOC計画値	WBS番号	カテゴリ	キーワード	グループ	コンポーネント	ステータス	トラッカー	プロジェクト	マイルストーン	予定工数	作成日	作成者	優先度	原因分類	報告者	対応バージョン	想定バグ密度	更新日
18.0		B-グループ	進行中	WBS	ipf						568.0		pmuser	通常					

- ※ インポート時に“プロジェクト名”の指定、“他プロジェクトのチケット更新を許可する”がチェックされていると、他プロジェクトのチケットが更新されますので注意して下さい。

- ④ 結果の確認を行います。以下の画面が表示されれば正常にインポートが行われています。

test01

インポート結果

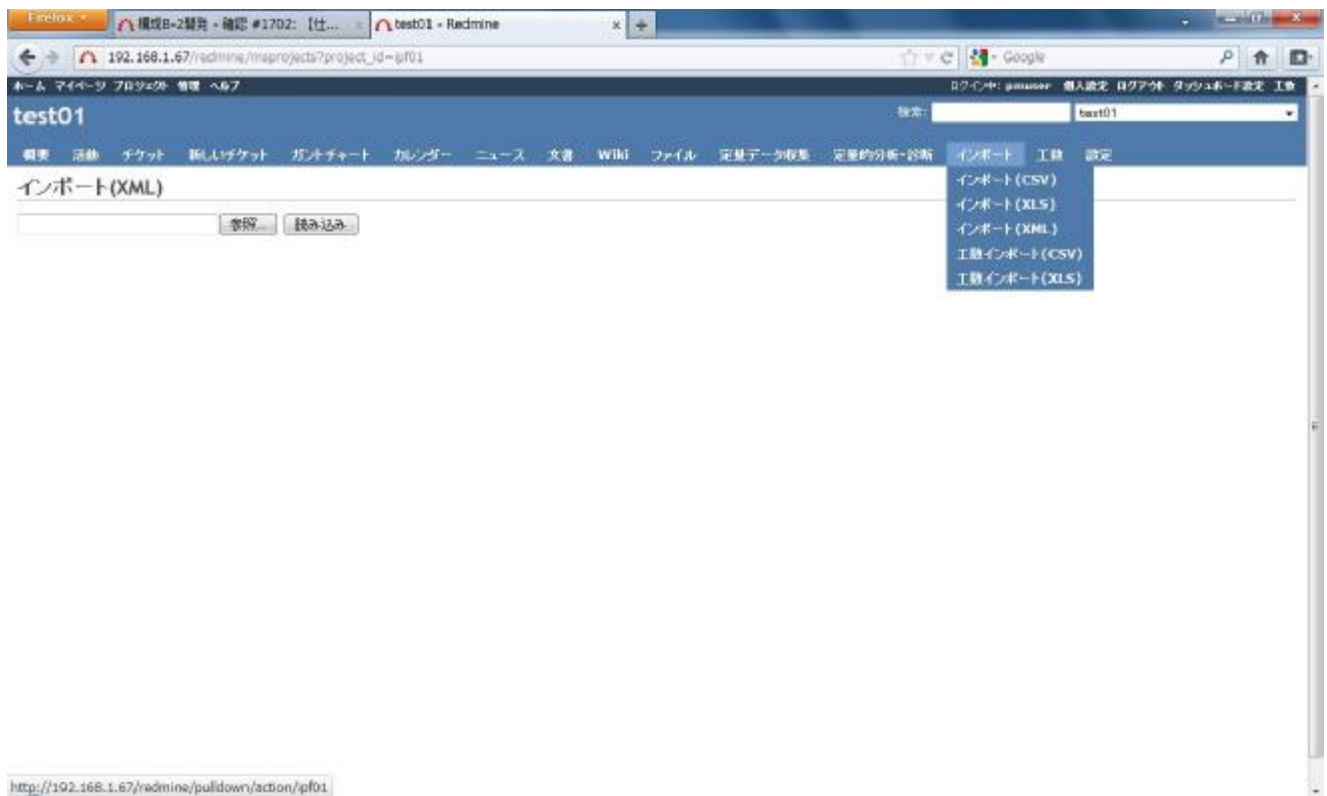
2件のチケットを処理し、2件のチケットをインポートしました。

更新したプロジェクト:  
定量的プロジェクト

管理ツールの機能: 2件

## 4.1.1.3 XML 形式での WBS 情報のインポート

- ① “インポート” ⇒ “インポート (XML)” を選択します。



- ② インポートする XML ファイル名を指定し、“読み込み” ボタンを押下します。“トラッカー” “、” 割り当て “などを設定後に” 保存 “ボタンを押下します。



- ③ 結果の確認を行います。以下の画面が表示されれば正常にインポートが行われています。



test01

0 件追加しました 3 件更新しました

新規チケット

表示するデータがありません

更新されたチケット

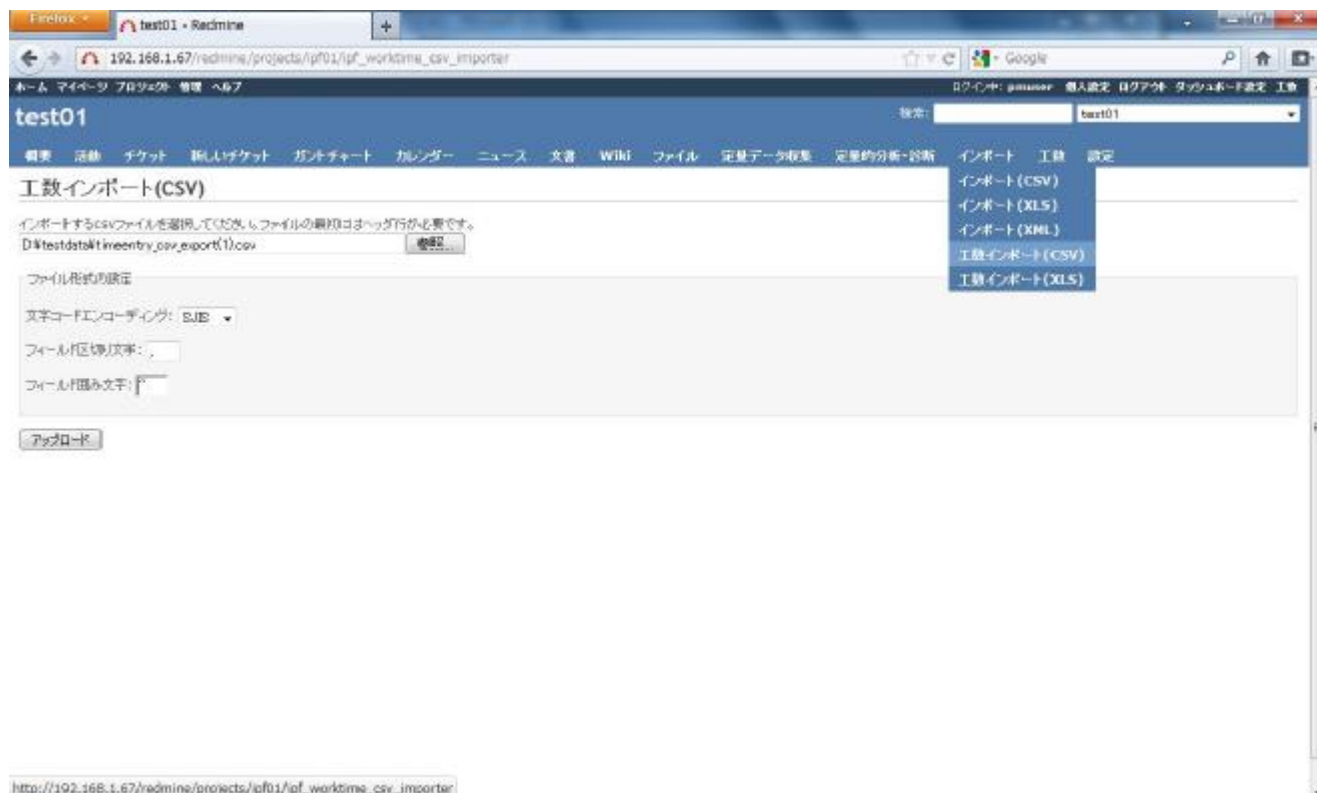
タイトル	トラッカー	担当	開始日	終了予定日	作成日
TaskLevel1	WBS	PM 太郎	2012-01-19	2012-01-25	Thu Jan 19 19:38:00 +0900 2012
TaskLevel2	WBS	PM 太郎	2012-01-19	2012-01-19	Thu Jan 19 19:39:00 +0900 2012
TaskLevel2-2	WBS	PM 太郎	2012-01-19	2012-01-19	Thu Jan 19 19:39:00 +0900 2012



## 4.1.2 外部ファイルからの工数情報のインポート

## 4.1.2.1 CSV 形式での工数情報のインポート

- ① “インポート” ⇒ “工数インポート (CSV)” を選択します。



- ② CSV ファイル名を設定して“アップロード”を押下します。“対応するフィールドの選択”などを設定後に”送信”ボタンを押下します。



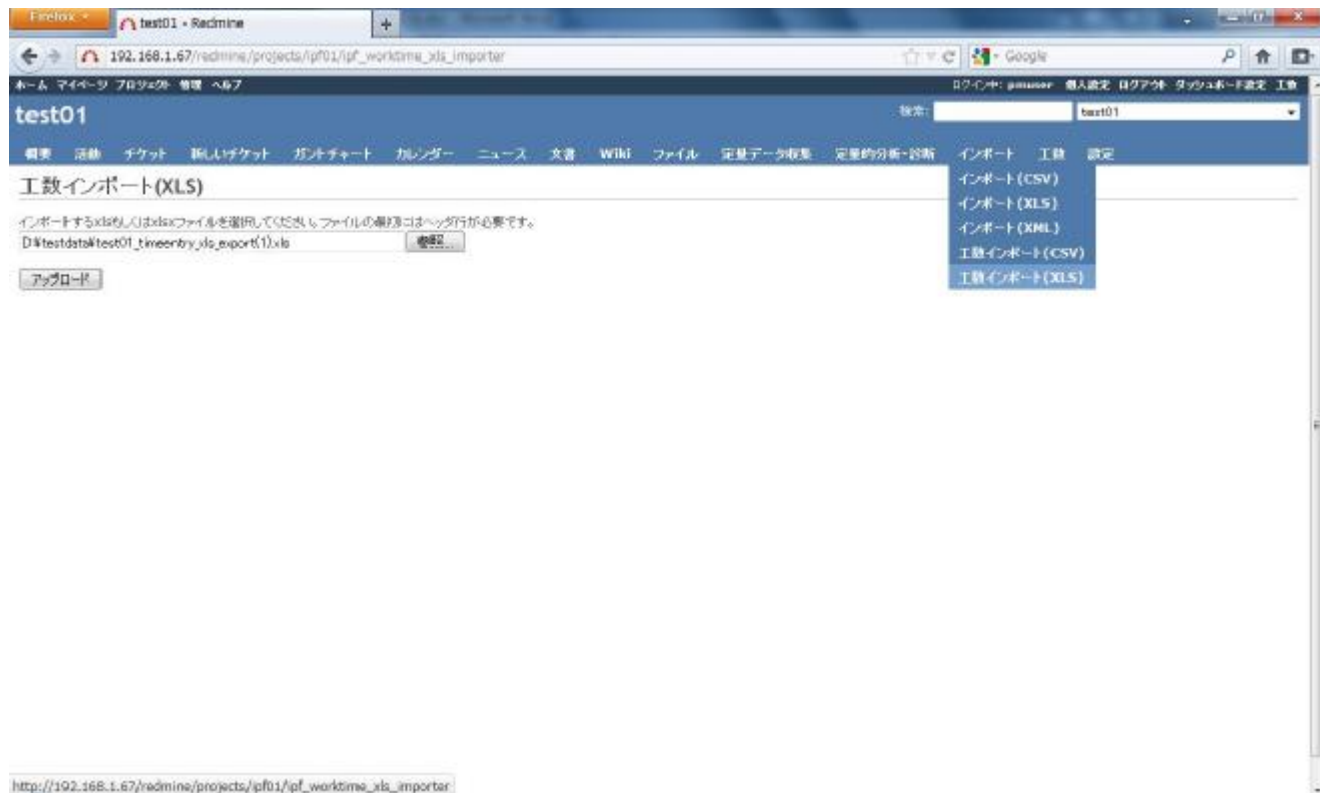
- ③ インポート処理が正常に終了したことを確認します。



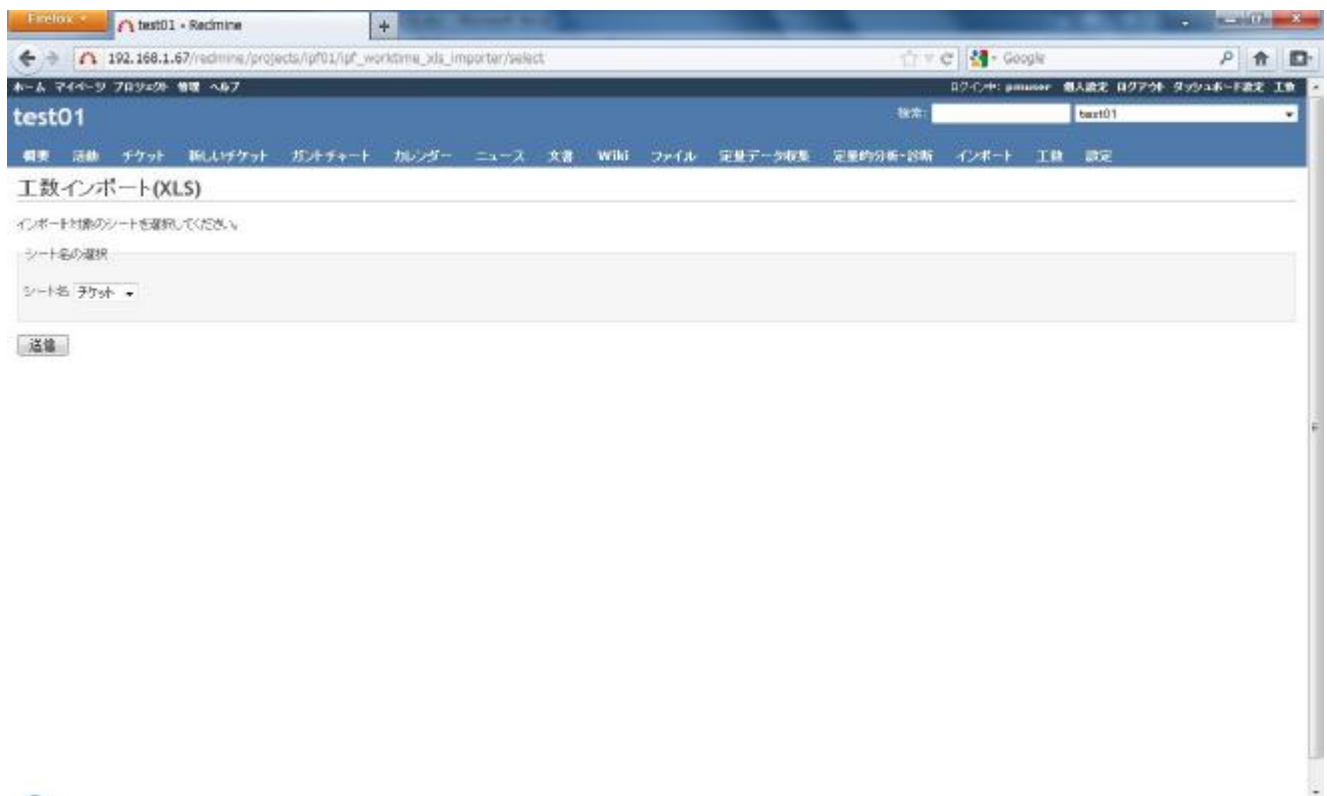


## 4.1.2.2 XLS 形式での工数情報のインポート

- ① “インポート” ⇒ “工数インポート (XLS)” を選択します。



- ② XLS ファイル名を設定して“アップロード”を押下します。下記の画面で読み込み対象のシート名を選択し、“送信”ボタンを押下します。



- ③ “対応するフィールドの選択”などを設定後に”送信”ボタンを押下します。

test01

ホーム マイページ プロジェクト 管理 ヘルプ

ログイン中: pmuser 個人設定 ログアウト ダッシュボード設定 工数

検索: test01

概要 活動 チケット 新しいチケット ガントチャート カレンダー ニュース 文書 Wiki ファイル 定量的データ収集 定量的分析・診断 インポート 工数 設定

### 列のマッチング

対応させるフィールドの選択

id: id コピート: コピート チケットID: チケットID プロジェクト: プロジェクト  
 ユーザ: ユーザ 日付: 日付 稼働時間: 稼働時間 行動: 行動

インポートルール

☐ 既存のデータを更新する  
 データの検索に使うユニークなフィールド: id  
☐ 存在しないデータの指定を無視する

**送信**

test01\_timeentry\_xls\_export[1].xlsの先頭:

id	コピート	チケットID	プロジェクト	ユーザ	日付	稼働時間	行動
11.0	461.0	test01	pmuser	2012-01-19	20.0	設計作業	
10.0	461.0	test01	pmuser	2012-01-19	20.0	設計作業	
9.0	460.0	test01	pmuser	2012-01-19	20.0	設計作業	
8.0	459.0	test01	pmuser	2012-01-19	20.0	設計作業	
7.0	458.0	test01	pmuser	2012-01-19	20.0	設計作業	

- ④ インポート処理が正常に終了したことを確認します。

test01

ホーム マイページ プロジェクト 管理 ヘルプ

ログイン中: pmuser 個人設定 ログアウト ダッシュボード設定 工数

検索: test01

概要 活動 チケット 新しいチケット ガントチャート カレンダー ニュース 文書 Wiki ファイル 定量的データ収集 定量的分析・診断 インポート 工数 設定

### インポート結果

8 件のデータを処理し、8 件のデータをインポートしました。

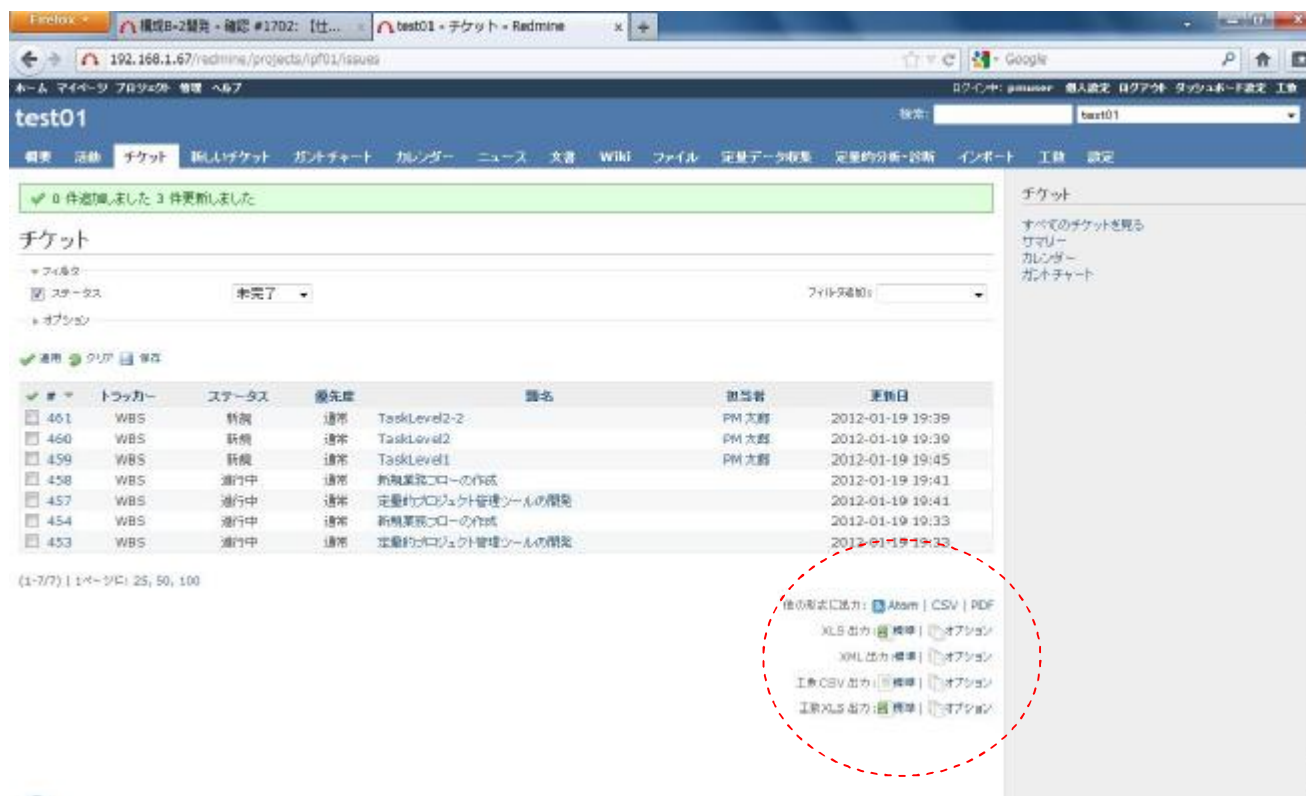
追加したプロジェクト: test01: 8 件

## 4.2 外部ファイルへの課題・障害・WBS、工数情報のエクスポート

① タブに表示されている「チケット」より、チケットの表示を行います。画面下部の

- ü XLS 出力
- ü XML 出力（WBS 情報のみ）
- ü CSV

を押下することにより、指定形式でのエクスポートを行います。



**XML** 形式でエクスポートを行う際は、「対象をファイルに保存」を使用してファイルに保存を行って下さい。

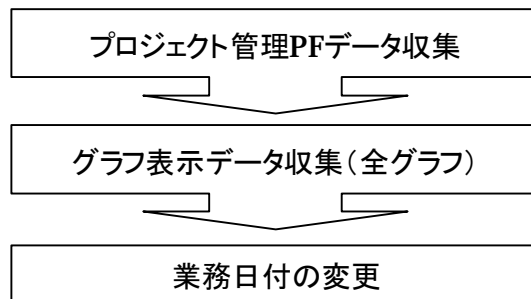
また、チケットの一覧に表示されている順で **XML** に出力されますので、チケット番号でソートするなど、正しい階層の順番にしてから、エクスポートを行って下さい。

※ **XLS** 形式でエクスポートした時、親チケットのセルには、「**WBS #123: 基本設計**」のようにトラッカーと題名がチケット **ID** に付与された形式で出力されます。インポートに使用する時には、「**123**」のように数字だけにして下さい。

## 5 定量データ収集・集計機能

### 5.1 定量データ収集（定期実行）

定量データの収集を定期的に収集するために、以下の手順に従い定量データ収集処理のスケジュール設定を行って下さい。



#### 5.1.1 Windows 環境への定量データ収集バッチのスケジュールラ設定方法（例）

##### 5.1.1.1 スケジュール起動用バッチファイルの修正

- ① スケジュール起動用のバッチファイル（下記）をテキストエディタで開いて、定量データ収集対象のプロジェクト ID をパラメータに指定して収集処理の呼び出しを記述します。

**C:\¥ipftools¥batch¥ipf\_data\_collect.bat**

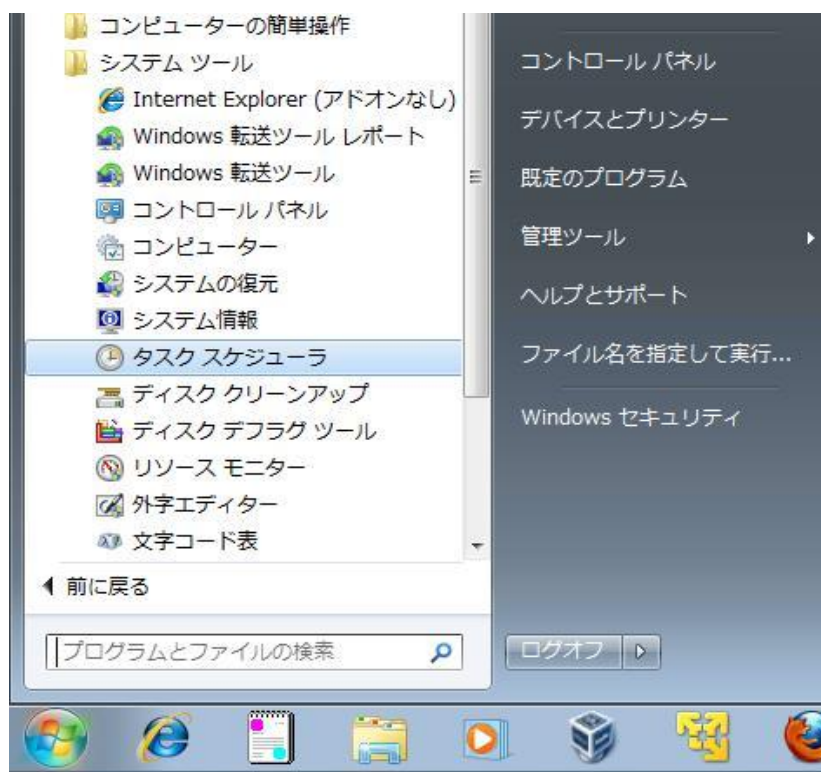
(例) プロジェクト ID 「functest」の定量データを収集する場合の記述。

```

rem -----
rem functest のデータ収集
rem -----
call %BATCH_BASE_DIR%¥B001TSE¥B001TSE.bat functest >> %LOG_FILE%
if %ERRORLEVEL% == 0 (
    call %BATCH_BASE_DIR%¥B003ISE¥B003ISE.bat functest >> %LOG_FILE%
)
if not %ERRORLEVEL% == 0 (
    SET ERR_FLAG=1
)

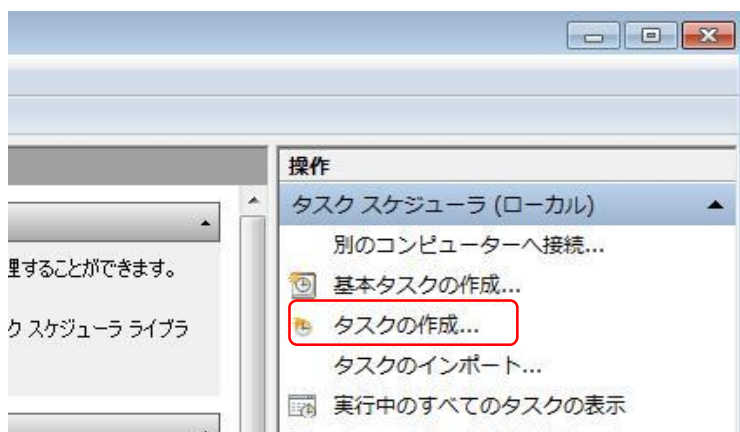
rem -----
rem ipf_project のデータ収集
rem -----
. . .
  
```

複数プロジェクトの定量データを収集する場合、上記のように後ろに続けて記述を行って下さい。



#### 5.1.1.2 タスクスケジューラ設定

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システム ツール] から[タスクスケジューラ]を選択し、タスクスケジューラを起動し、操作から [タスクの作成] を選択して下さい。



- ② [全般]タブで以下の項目を設定して下さい。
- ・「名前」に任意のタスク名を設定する。(例) **IPF** 定量データ収集
  - ・「ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する」を選択する。
  - ・「最上位の特権で実行する」にチェックを入れる。

タスクの作成

全般 トリガー 操作 条件 設定

名前(M): IPF定量データ収集

場所: ¥

作成者: PD2112¥forest

説明(D):

セキュリティ オプション

タスクの実行時に使うユーザー アカウント:  
PD2112¥forest

ユーザーまたはグループの変更(U)...

☐ ユーザーがログオンしているときのみ実行する(R)

☒ ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する(W)

☐ パスワードを保存しない(P)タスクがアクセスできるのはローカル コンピューター リソースのみ

☒ 最上位の特権で実行する(I)

☐ 表示しない(E)

構成(C): Windows Vista™, Windows Server™ 2008

OK キャンセル

- ③ 【トリガー】タブより【新規】 ボタンを押下して「新しいトリガー」ダイアログを表示し、以下の項目を設定して下さい。

- ・タスクの開始：「スケジュールに従う」を選択します
- ・設定に定量データ収集処理を実行するスケジュールを設定します。

ここでは、毎日 1:00 に実行する場合の例を示します。設定したら **[OK]** ボタンを押下して下さい。

新しいトリガー

タスクの開始(G): スケジュールに従う

設定

☐ 1回(N)

☒ 毎日(D)

☐ 毎週(W)

☐ 毎月(M)

開始(S): 2012/01/10 1:00:00

タイムゾーンにまたがって同期(Z)

間隔(C): 1 日

詳細設定

☐ 遅延時間を指定する(ランダム)(K): 1 時間

☐ 繰り返し間隔(P): 1 時間

継続時間(F): 1 日間

☐ 繰り返し継続時間の最後に実行中のすべてのタスクを停止する(I)

☐ 停止するまでの時間(L): 3 日間

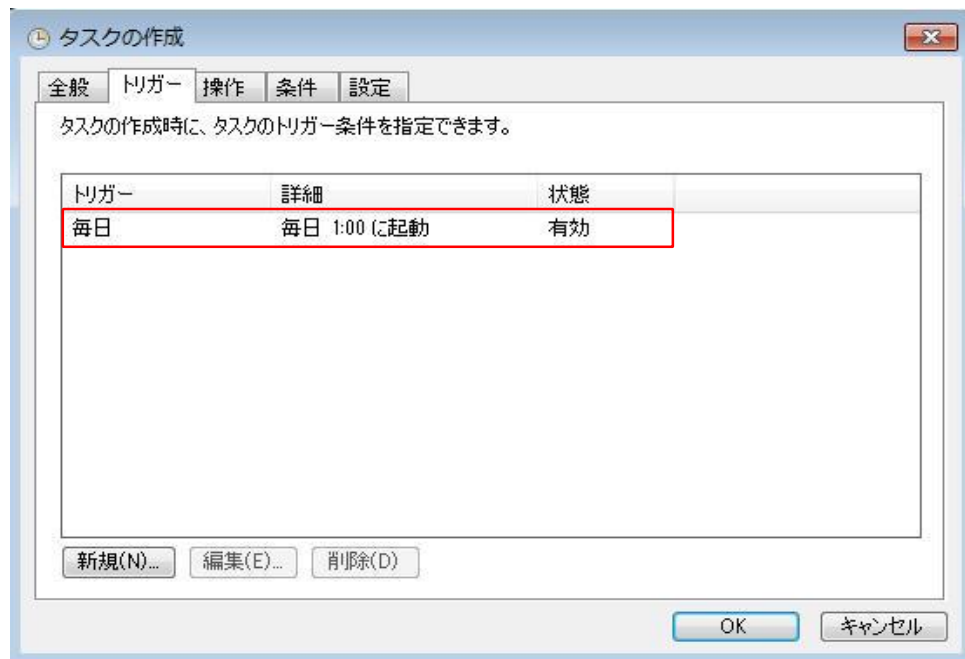
☐ 有効期限(X): 2013/01/10 21:58:24

タイムゾーンにまたがって同期(E)

☒ 有効(B)

OK キャンセル

[トリガー] タブに、上記で設定した内容が表示されます。





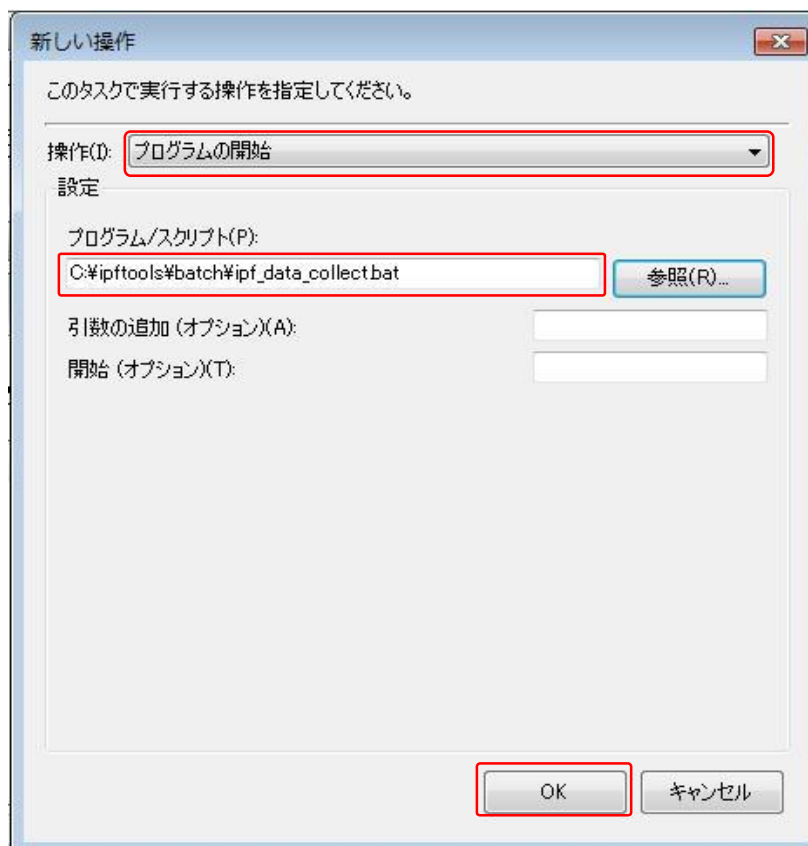
- ④ **[操作]** タブより **[新規]** ボタンを押下して「新しい操作」ダイアログを表示し、以下の項目を設定して下さい。

・操作：「プログラムの開始」を選択

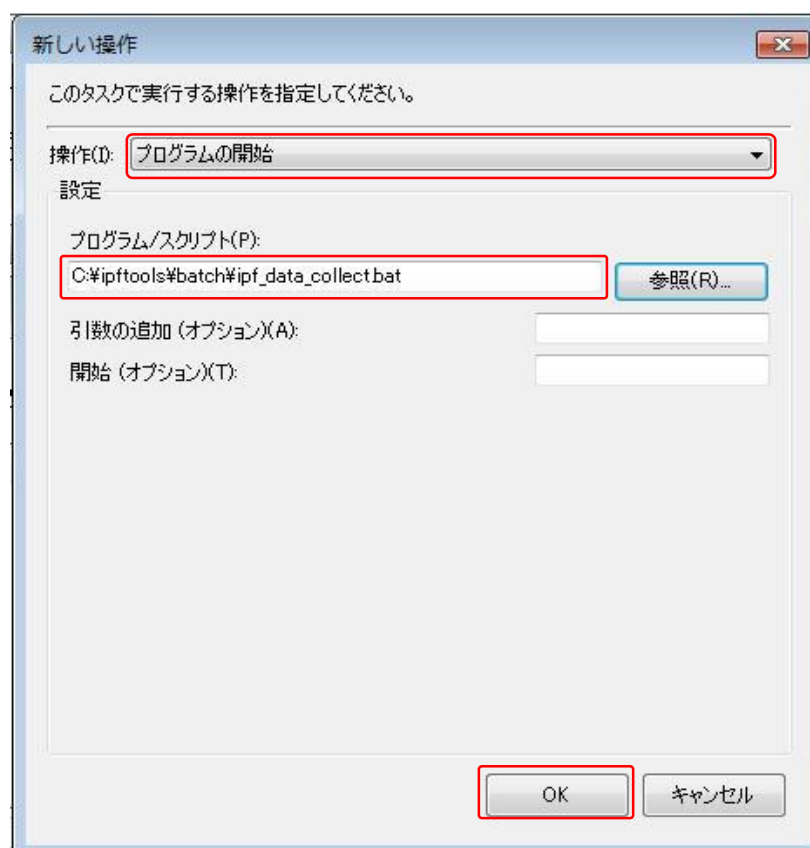
・プログラム/スクリプト： **[参照]** ボタンを押下して、ファイルダイアログから「5.1.1.1 スケジュール起動用バッチファイルの修正」で修正したバッチファイル（下記）を選択します。

**C:\¥ipftools¥batch¥ipf\_data\_collect.bat**

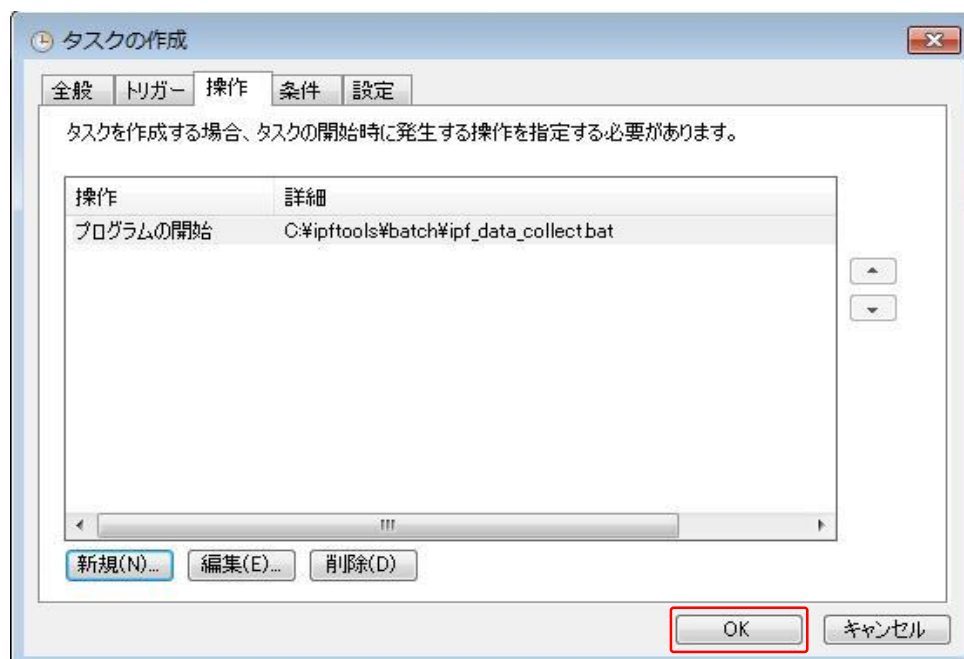
上記の設定後、 **[OK]** ボタンを押下して下さい。



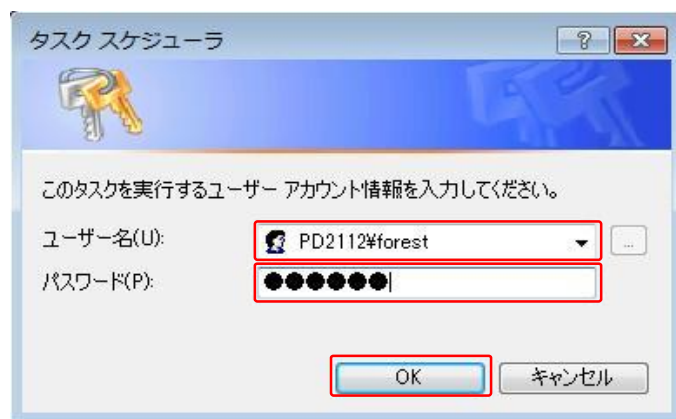
[操作] タブに、上記で設定した内容が表示されます。



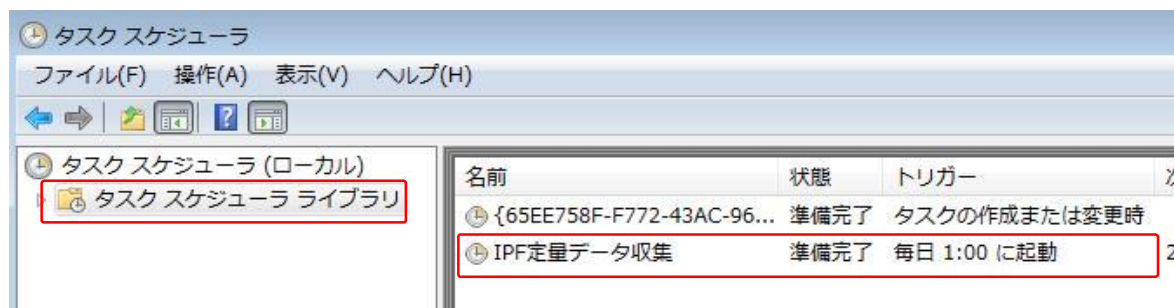
- ⑤ 「タスクの作成」ダイアログの [OK] ボタンを押下して下さい。



- ⑥ タスクを実行するユーザのユーザ名とパスワードを入力して [OK] ボタンを押下して下さい。



- ⑦ 「タスクスケジューラ ライブラリ」を選択して、先ほど作成したタスクが表示されることを確認します。



#### 5.1.1.3 業務日付ファイルの修正

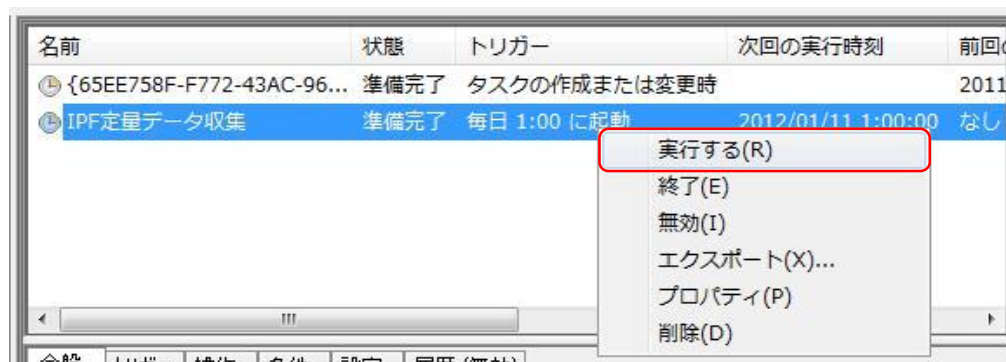
- ① 業務日付ファイル（下記）をテキストエディタで開いて、当日の日付に修正して下さい。

**C:¥ipftools¥batch¥batch\_date\_file¥batch\_file**

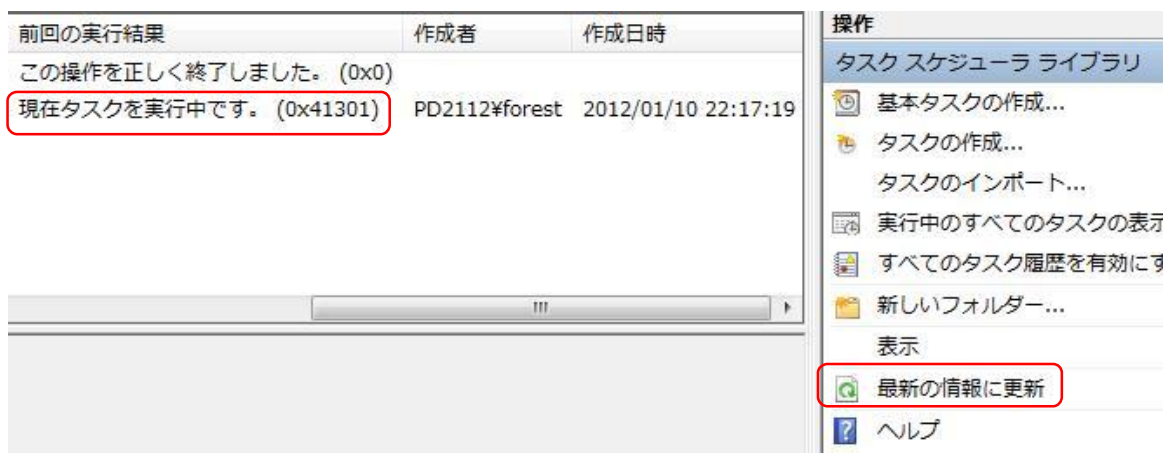
※ **ipf\_data\_collect.bat** では、定量データ収集処理完了後に業務日付ファイル更新処理を行います。現在の業務日付ファイルの日付に 1 を加える処理を行いますが、利用環境によりスケジューラにより起動されない日がある場合は業務日付ファイルの内容と現在日付に差異が発生しますので、手修正等の対応が必要になります。

## 5.1.1.4 動作確認方法

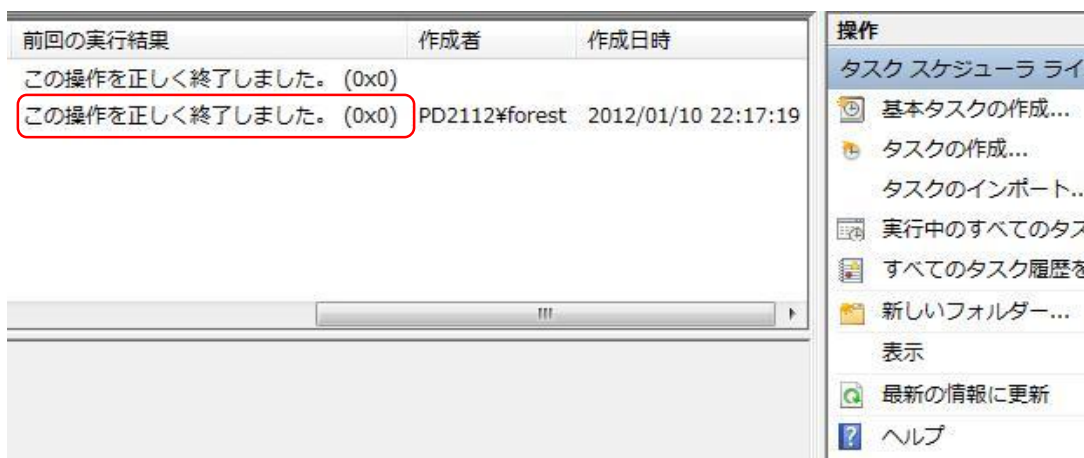
- ① 動作確認を行う場合は、作成したタスクを右クリックしてメニューから「実行する（R）」を選択して下さい。



- ② 「操作」から[最新の情報に更新]を選択すると、「前回の実行結果」の欄に「現在タスクを実行中です。」と表示されます。



- ③ 処理が正常終了すると、「前回の実行結果」の欄に「この操作を正しく終了しました。(0x0)」と表示されます。



- ④ 処理が異常終了した場合、「前回の実行結果」の欄にリターンコード「(0x1)」が表示されます。この場合、ログファイル（下記）を参照してどのプロジェクトのどのジョブでエラーが発生したか確認し、該当プロジェクトの対象ジョブのログファイルを参照してエラーの原因

を確認して下さい。

[C:\¥ipftools¥batch¥log¥ipf\\_data\\_collect\\_YYYYMMDD\\_HHMISS\\_MS.log](#)

前回の実行結果	作成者	作成日時	操作
この操作を正しく終了しました。(0x0)			タスク スケジューラ ライ...
(0x1)	PD21112¥forest	2012/01/10 22:17:19	基本タスクの作成...
			タスクの作成...
			タスクのインポート...
			実行中のすべてのタス
			すべてのタスク履歴を
			新しいフォルダー...
			表示
			最新の情報に更新
			ヘルプ

## 5.1.2 CentOS、Ubuntu Linux 環境への定量データ収集バッチのスケジューラ設定方法（例）

## 5.1.2.1 スケジュール起動用シェルスクリプトの修正

- ① スケジュール起動用のバッチファイル（下記）をテキストエディタで開いて、定量データ収集対象のプロジェクト ID をパラメータに指定して収集処理の呼び出しを記述します。

[/opt/ipftools/batch/ipf\\_data\\_collect.sh](#)

(例) プロジェクト ID 「functest」の定量データを収集する場合の記述。

```
# -----
# functest のデータ収集
# -----
sh -C "$BATCH_BASE_DIR/B001TSE/B001RSE.sh" functest >> $LOG_FILE
RTN_CD=$?
if [ $RTN_CD -eq 0 ]; then
    sh -C "$BATCH_BASE_DIR/B003ISE/B003ISE.sh" functest >> $LOG_FILE
fi
RTN_CD=$?
if [ $RTN_CD -ne 0 ]; then
    ERR_FLAG=1
fi

# -----
# project_b のデータ収集
# -----

. . .
```

複数プロジェクトの定量データを収集する場合、上記のように後ろに続けて記述を行って下さい。

## 5.1.2.2 Cron の設定

- ① 下記コマンドを実行し **crontab** 編集用エディタを起動します。  
（編集用エディタは、**vi** を例として記述します。）

○ CentOS の場合

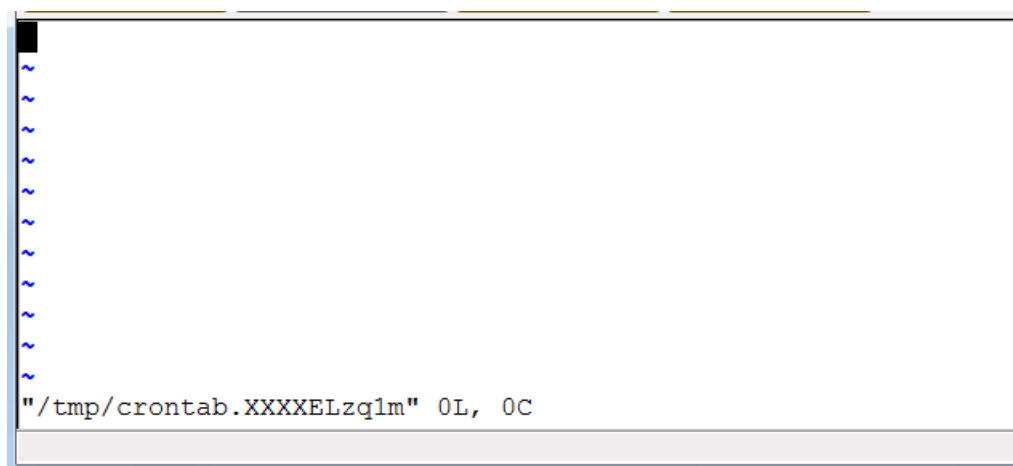
バッチ処理を **apache** ユーザで実行する必要があるため、オプション **-u** で **apache** を指定しています。

```
# crontab -u apache -e
```

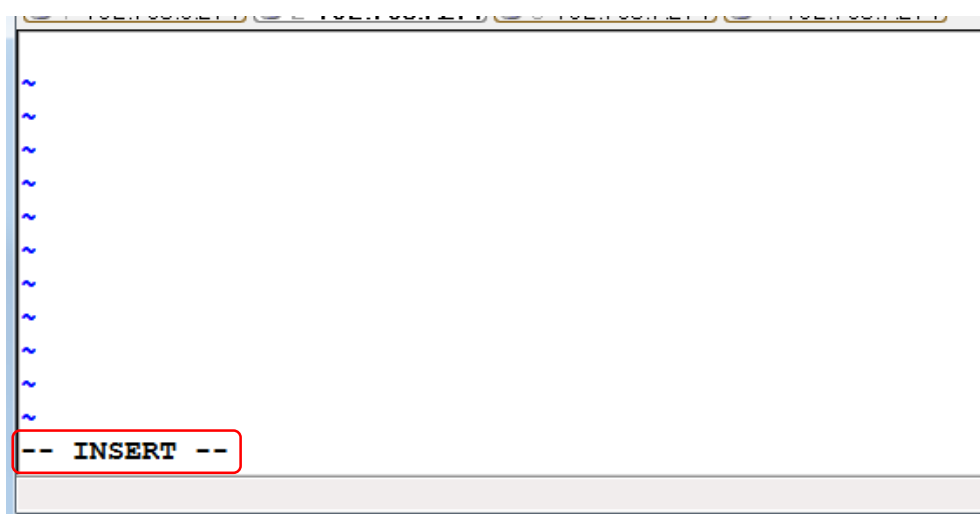
○ Ubuntu Linux の場合

バッチ処理を **www-data** ユーザで実行する必要があるため、オプション **-u** で **www-data** を指定しています。

```
# crontab -u www-data -e
```

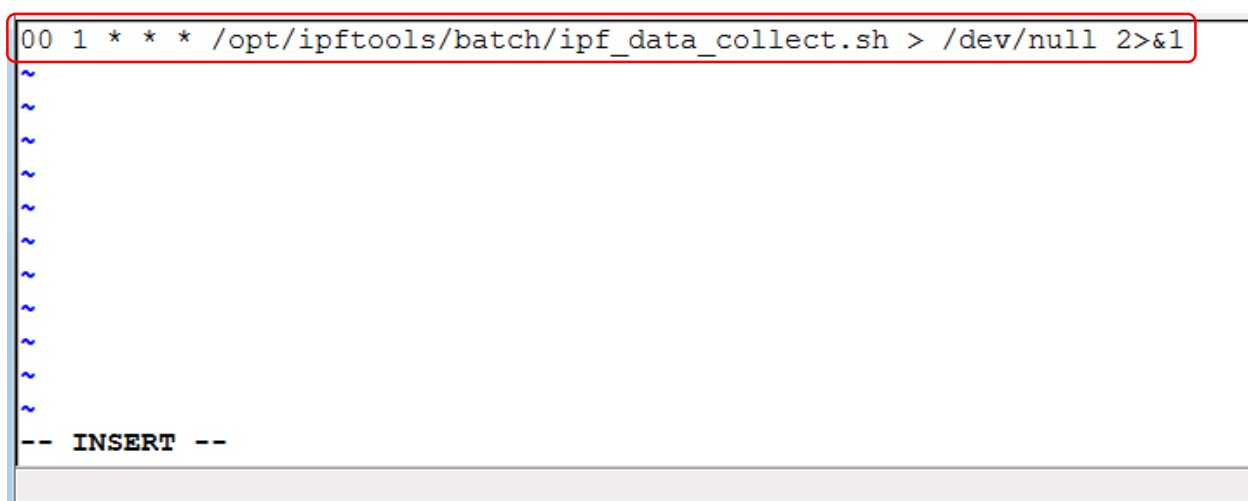


- ② **crontab** 編集用エディタで、**[i]**キーを押下して編集モードにします。



- ③ 「**5.1.2.1** スケジュール起動用シェルスクリプトの修正」で設定したシェルを実行するコマンドを記述します。ここでは、毎日 **1:00** に実行する場合の例を示します。

```
00 1 * * * /opt/ipfutils/batch/ipf_data_collect.sh > /dev/null 2>&1
```





## 【crontab の書式設定】

\*\*\*\*\* [実行コマンド]

\* は左から「分」「時」「日」「月」「曜日」の設定項目となっています。

設定可能な数値

分 **0-59**

時 **0-23**

日 **1-31**

月 **1-12**

曜日 **0-7 (0 または 7 は日曜日)**

実行時間指定方法

リスト **0,10,20,30** 分フィールド指定した場合は **0,10,20,30** 分に実行します。

範囲 **1-5** 月フィールドで指定した場合、**1,2,3,4,5** 月に処理を実行します。

共存 **1,6,9-11** 時間フィールドで指定した場合、**1 時、6 時、9 時、10 時、11 時** に処理を実行します。

間隔 **\*/10** 分フィールドで指定した場合、**10 分**間隔で処理を実行します。「/」の後ろに指定した値の間隔で処理を実行します。

- ④ [ESC] を押下し、編集モードを抜けた後、「:wq」と入力して、[Enter] キーを押下すると **crontab** の編集内容が登録されます。

```
00 1 * * * /opt/ipftools/batch/ipf_data_collect.sh > /dev/null 2>&1
~
~
~
~
~
~
~
~
~
~
~
~
:wq
```

```
~
~
~
~
~
~
~
~
~
~
~
~
"/tmp/crontab.XXXxEIzq1m" 1L, 68C written
crontab: installing new crontab
[root@IPA3 log]#
```

- ⑤ 下記コマンドを実行して、登録されている **crontab** の内容を確認します。

Ø CentOS の場合

```
# crontab -u apache -l
```

Ø Ubuntu Linux の場合

```
# crontab -u www-data -l
```

CentOS の例

```
[root@IPA3 log]# crontab -u apache -l
00 1 * * * /opt/ipftools/batch/ipf_data_collect.sh > /dev/null 2>&1
[root@IPA3 log]#
```

### 5.1.2.3 業務日付ファイルの修正

- ① 業務日付ファイル（下記）をテキストエディタで開いて、当日の日付に修正して下さい。

[/opt/ipftools/batch/batch\\_date\\_file/batch\\_file](#)

※ **ipf\_data\_collect.sh** では、定量データ収集処理完了後に業務日付ファイル更新処理を行います。現在の業務日付ファイルの日付に 1 を加える処理を行いますが、利用環境によりスケジューラにより起動されない日がある場合は業務日付ファイルの内容と現在日付に差異が発生しますので、手修正等の対応が必要になります。

### 5.1.3 バックアップ処理のスケジューラ設定方法

**Redmine** 版実行環境のバックアップ処理のスケジュール設定を行う場合は、「**5.1.1 Windows 環境への定量データ収集バッチのスケジューラ設定方法（例）**」及び「**5.1.2 CentOS、Ubuntu Linux 環境への定量データ収集バッチのスケジューラ設定方法（例）**」と同様に設定を行います。

スケジューラには以下の処理を設定して下さい。

**Windows 環境** : C:¥ipftools¥batch¥project\_backup.bat

**Linux 環境** : /opt/ipftools/batch/project\_backup.sh

## 5.2 定量データ収集（手動実行）

定量データの収集は定時起動され、定期的にデータ収集が行いますが、

- ・ **Redmine** に入力した定量データを直に集計したい
- ・ プロジェクトの新規作成を行い、その情報をグラフ表示したい
- ・ ユーザの権限を変更したが、直にその権限で定量的プロジェクト管理ツールを利用したい

等の場合は、以下の手順により「**IPF DB データ集計**」処理を実行して下さい。手動実行では「**5.2.1 プロジェクト管理プラットフォームデータ収集**」の完了後に「**5.2.2 グラフ表示データ収集（グラフ個別）**」を実行する必要がありますので、実行順番に注意して下さい。

### 5.2.1 プロジェクト管理プラットフォームデータ収集

- ① サーバ管理者ロールまたは、プロジェクト管理者ロールを持つユーザにて各プロジェクトの“定量データ収集”を押下すると、下記の“定量データ収集画面”が表示されます。“プロジェクト管理プラットフォームデータ収集”の脇の“収集実行”ボタンを押下すると定量データ収集処理が起動されます。

定量的プロジェクト管理ツールの開発

定量データ収集

プロジェクト管理プラットフォームデータ収集

No.	収集処理名	収集先	データ更新日時
1	プロジェクト管理プラットフォームデータ収集	IPF DB(定量データ)	<a href="#">収集実行</a>

グラフ表示データ集計

No.	集計処理名	対象テーブル	対象グラフ	データ更新日時
1	試験計画項目密度情報集計	試験計画項目密度情報	試験計画項目密度	<a href="#">集計実行</a>
2	WBS進捗情報集計	WBS進捗情報	WBS進捗情報	<a href="#">集計実行</a>
3	WBS進捗率情報集計	WBS進捗率情報	WBS進捗率	<a href="#">集計実行</a>
4	WBS進捗率変化情報集計	WBS進捗率変化情報	WBS進捗率変化	<a href="#">集計実行</a>
5	WBS進捗率変化率情報集計	WBS進捗率変化率情報	WBS進捗率変化率	<a href="#">集計実行</a>
6	WBS進捗率変化率変化情報集計	WBS進捗率変化率変化情報	WBS進捗率変化率変化	<a href="#">集計実行</a>
7	WBS進捗率変化率変化率情報集計	WBS進捗率変化率変化率情報	WBS進捗率変化率変化率	<a href="#">集計実行</a>
8	WBS進捗率変化率変化率変化情報集計	WBS進捗率変化率変化率変化情報	WBS進捗率変化率変化率変化	<a href="#">集計実行</a>
9	WBS進捗率変化率変化率変化率情報集計	WBS進捗率変化率変化率変化率情報	WBS進捗率変化率変化率変化率	<a href="#">集計実行</a>

② 処理が完了すると下記の画面が表示されます。

定量的プロジェクト管理ツールの開発

ホーム マイページ プロジェクト 管理 ヘルプ

定量データ収集

プロジェクト管理プラットフォームデータ収集

No.	収集処理名	収集先	データ更新日時
1	プロジェクト管理プラットフォームデータ収集	IPF DB (定量データ)	2012/01/20 16:05:21 正常終了しました。

グラフ表示データ集計

No.	集計処理名	対象テーブル	対象グラフ	データ更新日時
1	試験計画項目密度情報集計	試験計画項目密度情報	試験計画項目密度	2012/01/20 16:14:34 正常終了しました。
2	WBS進捗情報集計	WBS進捗推移情報 WBS進捗推移月別情報 進捗遅延リスク抽出情報	WBS進捗推移 WBS進捗遅延 進捗遅延リスク抽出	
3	EVM評価情報集計	EVM評価遅延情報 EVM評価月別情報	EVM評価 工場の予測	
4	ソフトウェア開発進捗情報集計	ソフトウェア開発進捗情報	ソフトウェア開発進捗	
5	試験進捗率情報集計	試験進捗率情報	試験進捗率	
6	障害情報集計	障害件数変化情報 障害発生原因情報 障害発生密度情報 障害発生状況情報	障害件数変化 障害発生原因 障害発生密度 障害発生状況	
7	負荷状況情報集計	負荷状況情報	負荷状況	
8	課題情報集計	高頻率課題抽出情報 課題発生状況抽出情報	高頻率課題抽出情報 課題発生状況抽出情報	
9	複数プロジェクト情報集計	複数プロジェクトの情報	複数プロジェクトの進捗確認 複数プロジェクトの健全性確認	

http://192.168.1.67/redmine/ipf\_data\_collect?project\_id=ipf

## 5.2.2 グラフ表示データ収集（グラフ個別）

- ① サーバ管理者ロールまたは、プロジェクト管理者ロールを持つユーザにて各プロジェクトの“定量データ収集”を押下すると、下記の“定量データ収集画面”が表示されます。グラフ表示データ集計の脇の“集計実行”を押下するとグラフ個別にグラフ表示データ集計処理が起動されます。

定量的プロジェクト管理ツールの開発

定量データ収集

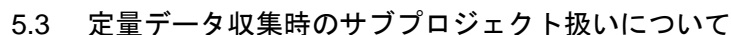
プロジェクト管理プラットフォームデータ収集

No.	収集処理名	収集先	データ更新日時
1	プロジェクト管理プラットフォームデータ収集	IPF DB(定量データ)	2012/01/20 16:05:21 正常終了しました。

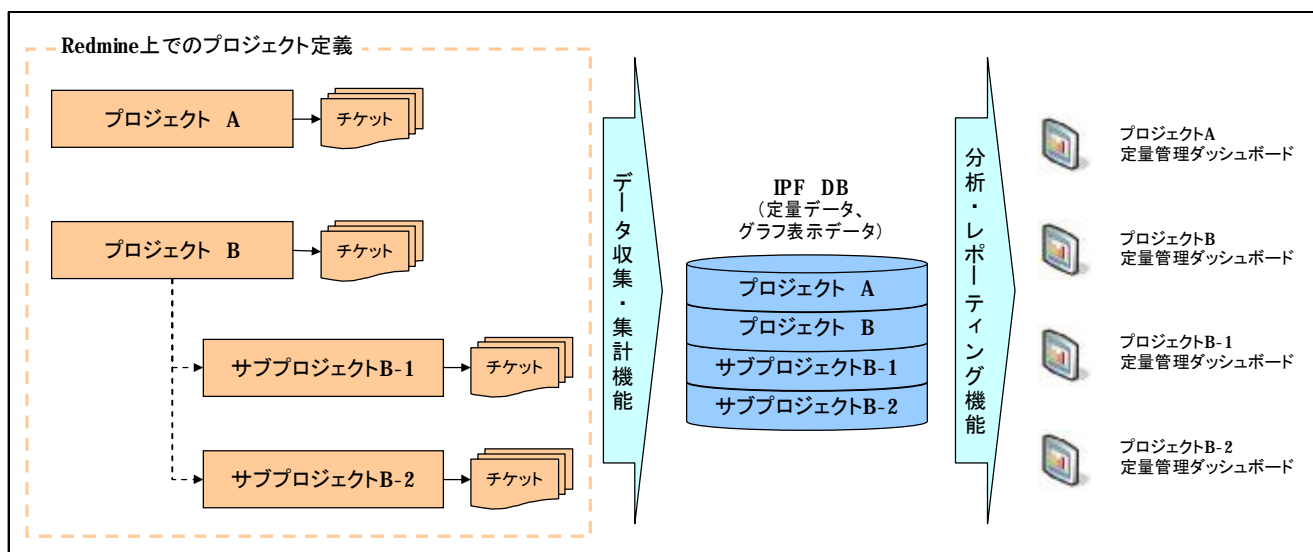
グラフ表示データ集計

No.	集計処理名	対象テーブル	対象グラフ	データ更新日時
1	試験計画項目密度情報集計	試験計画項目密度情報	試験計画項目密度	2012/01/20 16:14:34 正常終了しました。
2	WBS進捗情報集計	WBS進捗推移逐時情報 WBS進捗推移月毎情報 逐時進捗タスク抽出情報	WBS進捗推移 WBS進捗逐時 逐時進捗タスク抽出	
3	EVM進捗情報集計	EVM計画進捗情報 EVM計画月毎情報	EVM計画 工数の予測	
4	ソフトウェア開発進捗情報集計	ソフトウェア開発進捗情報	ソフトウェア開発進捗	
5	試験進捗率情報集計	試験進捗率情報	試験進捗率	
6	障害情報集計	障害件数逐時情報 障害原因分析情報 障害発生密度情報 障害発生状況情報	障害件数逐時 障害原因分析 障害発生密度 障害発生予測	
7	負荷状況情報集計	負荷状況情報	負荷状況	
8	課題情報集計	長期未解決課題抽出情報 課題発生状況抽出情報	長期未解決課題抽出 課題発生状況抽出	
9	複数プロジェクト情報集計	複数プロジェクトの情報	複数プロジェクトの進捗確認 複数プロジェクトの健全性確認	

http://192.168.1.67/redmine/pf\_data\_collect?project\_id=ipf



**Redmine** 上ではサブプロジェクトの定義を行う事が出来ますが、定量的プロジェクト管理ツールではサブプロジェクトも親プロジェクトと同様に、個別のプロジェクトとして収集、集計が行われます。





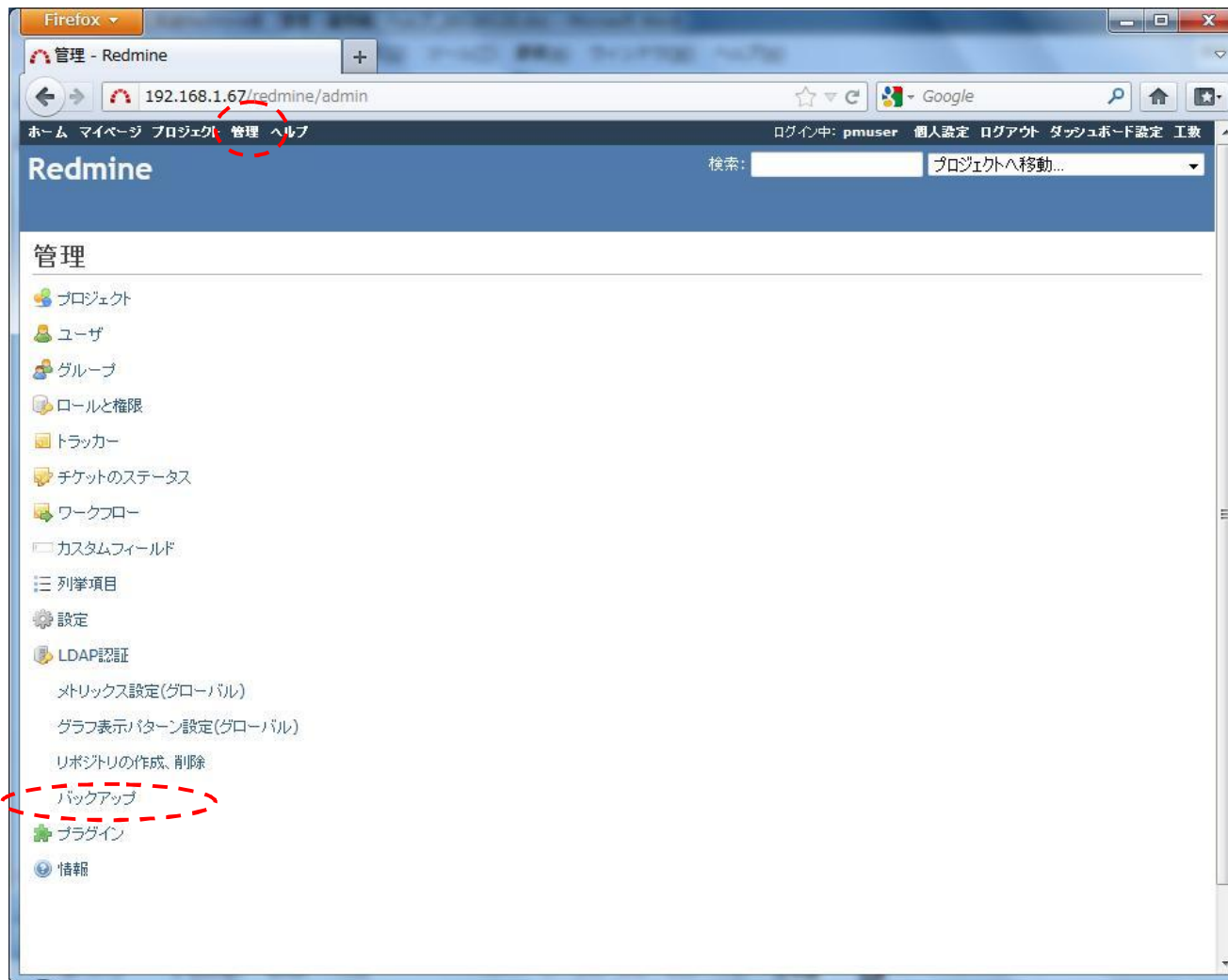
## 6 運用

### 6.1 バックアップ

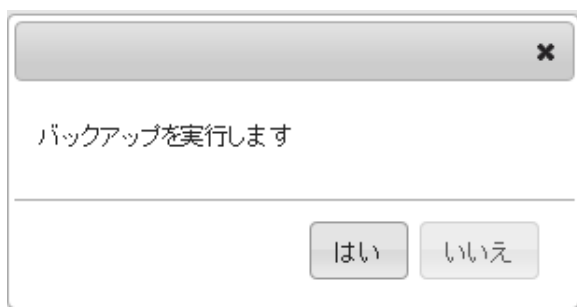
#### 6.1.1 バックアップ（全体プロジェクト）

全体プロジェクトのバックアップでは **Redmine** 環境、**RedmineDB**、リポジトリ（構成管理ツール）、及び **IPF DB** のバックアップを取得します。

- ① **Redmine** に管理者権限でログインし、“管理”より“バックアップ”を押下して下さい。



- ② “全体プロジェクト”を選択し、“バックアップの開始”を押下して下さい。確認のダイアログが表示されるので、確認後“OK”を押下するとバックアップが開始します。



- ③ バックアップが正常に取得されると、一覧上に取得したバックアップの情報が表示されます。

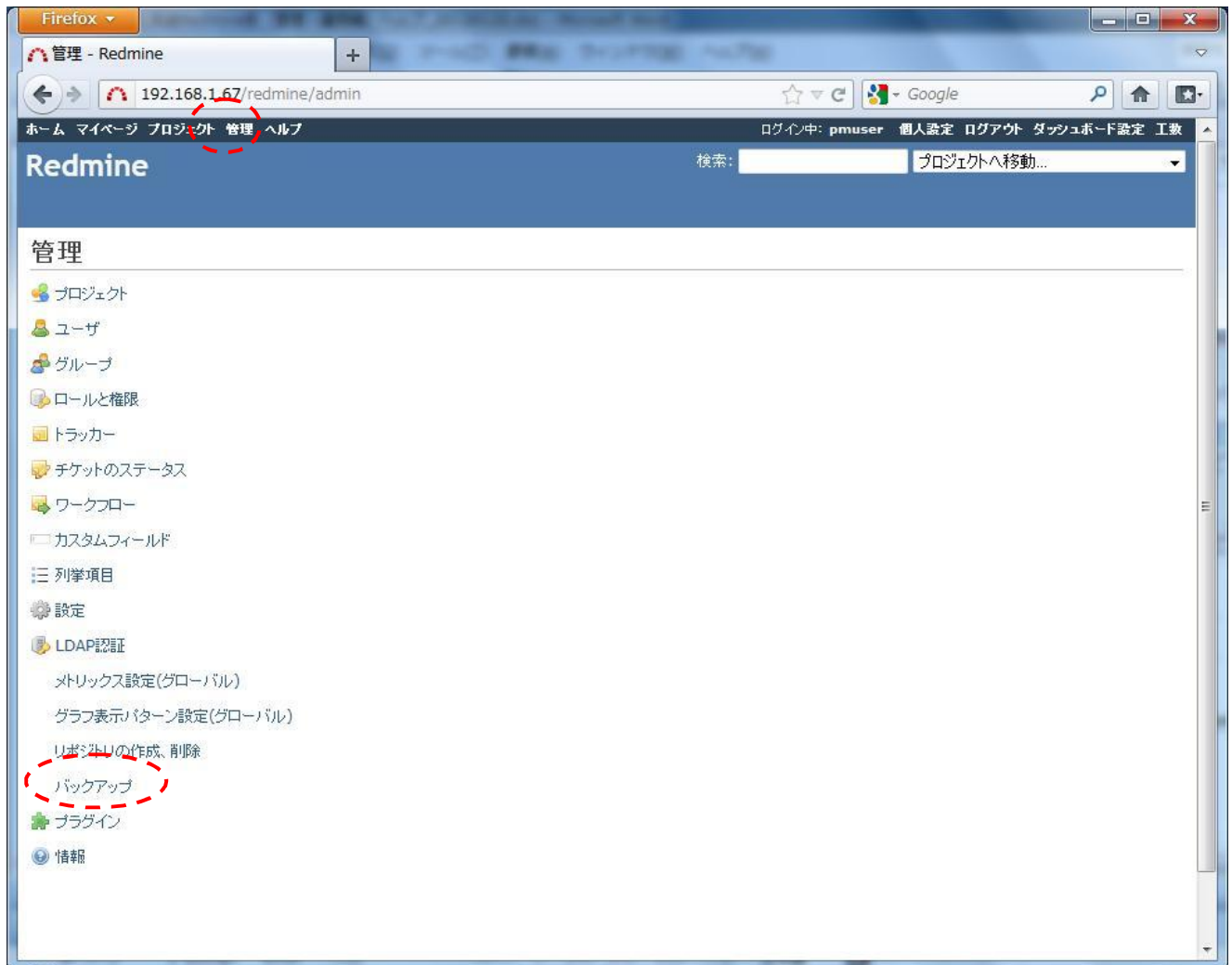


- ④ バックアップ一覧上の“ダウンロード”を押下すると、指定したバックアップファイルのダウンロードを行う事が出来ます。
- ⑤ 不要になったバックアップは一覧上の“削除”を押下することにより、削除できます。

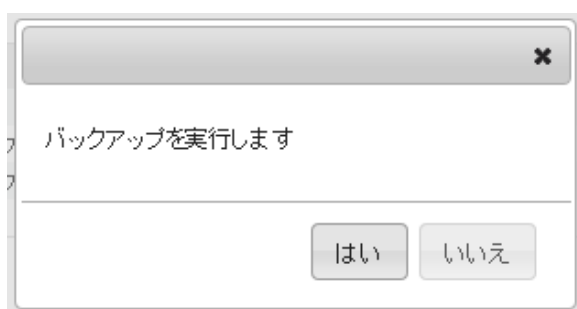
### 6.1.2 バックアップ（プロジェクト個別）

プロジェクト個別のバックアップでは **Redmine** 環境、**RedmineDB**、リポジトリ（構成管理ツール）のバックアップを取得します。

- ① **Redmine** に管理者権限でログインし、“管理”より“バックアップ”を押下して下さい。



- ② 対象に“プロジェクト管理プラットフォーム・版管理ツール”を選択し、“バックアップの開始”を押下して下さい。確認のダイアログが表示されるので、確認後“OK”を押下するとバックアップが開始します。



- ③ バックアップが正常に取得されると、一覧上に取得したバックアップの情報が表示されます。



- ④ バックアップ一覧上の“ダウンロード”を押下すると、指定したバックアップファイルのダウンロードを行う事が出来ます。
- ⑤ 不要になったバックアップは一覧上の“削除”を押下することにより、削除できます。

## 6.2 リストア

リストアを行う事により、バックアップ取得時点の状態に戻すことができます。リストアはコマンドにより行います。

### 【Windows 環境でのリストア実施手順例】

①PATH 環境変数に以下を追加

**C:¥ipftools¥pgsql¥bin;C:¥ipftools¥ruby¥bin**

②コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行

**cd C:¥ipftools¥script¥ipf\_restore**

**ruby ipf\_restore.rb**

**c:¥ipftools¥data¥backup¥ipf\_backup\_20120118\_105033.zip**

↑

バックアップで作成した **zip** を指定する。

### 【CentOS 環境でのリストア実施手順例】

**# cd /opt/ipftools/script/ipf\_restore**

**# sudo -u apache /opt/ipftools/bin/ruby ipf\_restore.rb**

**/opt/ipftools/var/backup/ipf\_backup\_ALL\_20120214\_163408.zip**

↑

バックアップで作成した **zip** を指定する。